



天満宮

題字／後西天皇御宸筆

特集

◆ 勅祭に由来する「令和の北野祭」

千百二十五年半萬燈祭での再興に向け準備が進む

◆ 《鬼切丸髭切》太刀拵え奉納プロジェクト中間報告

◆ 天神さまと私——総合地球環境学研究所所長 京都大学前総長 山極 壽一さん



京都 平安京の大門

御神忌 千百二十五年
半萬燈祭
未来へつなぐ誠の心

令和9年 | 2027

日本文化の中心地 京都

その文化の礎を築いた天神信仰発祥の社

北野天満宮の由緒

当宮は御祭神に菅原道真公（菅公）をお祀りした全国天満宮・天神社一万二千社の宗祀（総本社）の神社です。

天神信仰発祥の社として今から千年余り前の村上天皇天曆元年（九四七）六月九日、御神託により平安京の天門にあたる北野に御鎮座致しました。天徳三年（九五九）右大臣藤原師輔卿が御社殿を造営、一條天皇により北野祭は官祭に与り、「北野天満大自在天神」「北野天満宮天神」の神号を賜り、さらに皇室・朝廷の崇敬を受け二十二社に加えられ、臣下として初めて官幣中社に列格、皇城鎮護の神として崇められるとともに、天満宮・天神社の総本社として崇敬されてきました。

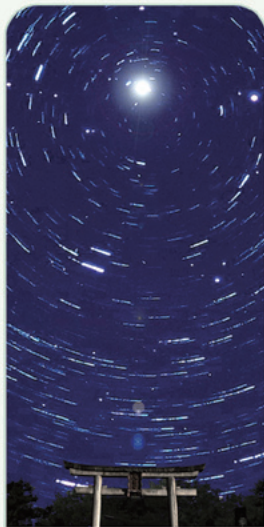
創建以来、皇室との御縁深く、寛弘元年（一〇〇四）には一條天皇がはじめて北野社に行幸されました。以来歴代天皇の行幸も二十数度に亘り、さらに將軍家や有力大名の崇敬を受けました。菅公薨去延喜三年（九〇三）より凡そ百年の歳月をかけて誕生した北野の天神信仰は、平安京の天門にあつて、朝野を問わず人々の暮らしの最も重要な指針となり今日まで育まれてきたのです。

「文道大祖 風月本主」と崇められた菅公は、和魂漢才の精神で誠の心を以って学問に勤しまれたことから、学問をはじめ芸能・農耕・厄除け・至誠・冤罪を晴らす神として奉祀されるとともに、人々の心の支えとなる神として、各時代の社会構造と相まって篤い崇敬をうけ、庶民に至るまで「天神様」として親しまれてきました。菅公は、学者・政治家また詩人・教育者として多方面に活躍され、生涯一貫された「誠の心」は、日本人の感性として現在にも生き続けています。

千有余年に亘る歴史の中で受け継がれてきた天神信仰の根本を示すのが、当宮所蔵の国宝「北野天神縁起絵巻」承久本です。数ある縁起絵巻の中で唯一無二の神社絵巻物であり、その信仰性や描かれる世界観、美術的価値は世界が認めるところであります。

また現在の御社殿は、豊臣秀吉公の遺命により豊臣秀頼公が片桐且元を奉行として、慶長十二年（一六〇七）に造営された一大建築群です。御本殿は八棟造と称され、国宝の指定を受ける桃山文化の代表的建築です。その絢爛豪華さは謂うまでもありませんが、特に多数の桃山建築の中でその創建当時の規模そのままに保存されているのは当宮が唯一のもので、後世の権現造の原型となるなど、神社建築史に多大な影響を与え続けています。

菅公の御神霊を祀る北野天満宮は、御墓所・太宰府天満宮と共に全国天満宮の宗祀と称され、日本文化の礎、学問の神様として今日も多くの参詣者が訪れています。



【シンボルマーク】

平安京の天門に位置する北極星を星梅鉢と鳥居（北野）で捉えたマーク。北野は千二百年に亘り、国都として文化を育んだ平安京にて、天の神々の出入口「天門」に菅原大神が奉祀された聖地。爾来、北野の地より全国に天神様の御神威が益々昂揚してきた。

表紙写真 — 北野七夕祭 萬燈提灯が夏の北野天満宮を照らす —

当宮の夏の恒例神事「北野七夕祭」を本年も8月2日から17日まで斎行する。

境内は令和9年斎行の菅公御神忌千二百五十年半萬燈祭に向けて献燈された萬燈提灯と、ライトアップされた七夕笹が参道を照らし、北野に訪れる参拝者を迎える。



御挨拶



「京都まるごとお茶博覧会」プレオープニングセレモニー（令和6年11月10日）

先ず以て、聖寿の万歳と皇室の弥栄、国家の隆昌ならびに氏子崇敬者皆様方のご健勝とご多幸をお祈り申し上げます。

さて、関西では現在「大阪・関西万博」が開催され、一六〇を超える国々や地域等々が参加し、最先端の技術や知識と多様な文化が世界に発信されています。

この万博に先立ち、当宮では同博覧会のプレイベントとして、昨秋、京都府・京都市が組織する「きょうとまるごとお茶の博覧会実行委員会」が主催となり「大阪・関西プレ・オープニング」を開催いたしました。万博を契機に、京都の茶文化を世界に発信し、お茶博覧会の機運醸成を図ることをテーマとして、古来、お茶と御縁深い当宮を舞台に、西脇京都府知事や松井京都市長はじめ、ご来賓に文化庁都倉長官、そして呉江浩中国大使夫妻をお招きし、開会のセレモニーを賑々しく執り行いました。またセレモニーに合わせて斎行した「曲水の宴」には、上冷泉家より冷泉為人当主が参列され、日本文化の礎となった平安王朝文化を、漢詩と和歌による朗詠と創作により披露いたしました。

このプレオープニングを経て、今秋に万博の最後を締め括る京都の行事として、十月十一日から十三日の三日間に亘り「きょうとまるごとお茶の博覧会」を開催する運びとなっております。天正十五年、豊太閤が当宮境内で催された「北野大茶湯」以来の茶文化が継承されている当宮で、在京の四家元（表千家・裏千家・武者小路千家・藪内家）をはじめ、京都の茶文化を支える茶人や茶商、茶の生産者、茶器や茶道具、茶菓子の職人から、府域の小・中学校、高等学校、大学生が一堂に会し、京都の茶文化を北野から世界に発信する、まさに一大文化祭典であります。

御祭神菅公の提唱された「和魂漢才」の精神、そしてその精神を源流とする「不易流行」の理念のもと、日本の歴史と伝統を重んじつつ、時代に合わせた変化も柔軟に受け入れ、昇華し、新しい文化を創造することは、現代において極めて重要な考え方であり、大きな意義があると確信しております。

令和九年に迎える菅公御神忌千二百五十年半萬燈祭を機に再興する北野祭は基より、先人が築き上げてこられた歴史と伝統、護持されてきた精神を次の世代に継承するため、祭祀の厳修と旧儀の復興、そして文化の発信をさらに推し進めて参る所存でございます。

御神縁深き皆様には、引き続き天神信仰の発揚と天満宮護持のため、格別なるご奉賛並びにご協力を賜りますようお願い申し上げます。

令和七年八月吉日

北野天満宮

宮司 橘 重十九

勅祭に由来する「令和の北野祭」

千百二十五年半萬燈祭での再興に向け準備が進む

例祭（大祭）を中心に、御手洗祭から北野祭神輿渡御まで続く一連の祭礼

祭礼期間 八月一日から十月五日 例祭・北野御霊会 九月四日齋行
室町時代には最盛期を迎えた、都を代表する祭礼「北野祭」

九月四日に齋行する「例祭」は、平安時代の永延元年（九八七）に、一條天皇が臣下である菅原道真公を奉祀する北野社に勅使を差遣し、「勅祭」として祭典を執り行われたのを起源としている。朝廷の篤い尊崇と、平安の雅やかな文化を具現化する京都随一の祭礼として伝わり、室町時代には幕府主導の祭礼となり、なかでも三代將軍足利義満公の時代は、幕府の絶大な庇護を受けて、北野祭は最盛期を迎えた。

現在、神事と祭礼行列は分かれて受け継がれているが、令和九年には元の姿に

厳肅な祭典と、神輿を中心とした豪華絢爛な渡御列を併せ持つかつての北野祭の祭礼期間は、御手洗祭による祓の儀式から始まり、北野祭本祭までのおよそ一カ月間にもわたる壮大な神事であった。しかし、応仁の戦乱や時流の変遷により、かつての北野祭は現在、神事と神輿渡御にそれぞれ分かれた形で継承されている。来る令和九年の菅公御神忌千百二十五年半萬燈祭に向け、かつて京都随一の祭礼と称され、人々の篤い信仰を受けた「北野祭」を歴史と伝統に則った往時の姿に再興する。

神仏習合と北野祭の歴史

天曆元年（九四七）に当宮が創建されて以降、明治初頭に至るまでのおよそ千年間に亘り、当宮の社務は、天台宗比叡山延暦寺が管轄し、曼殊院門跡門主が別当職（監督）を務め、そのもとで宮仕



嘉永五年（一八五二）に齋行された九百五十年大萬燈祭の様子を描いた絵図僧侶が参進する様子が伺える



例祭（神職・僧侶がそろって参進）





北野御霊会

と呼ばれる僧侶らが神社の祭礼や社務全般を奉仕していた。
菅公は御生前、天台座主十三世尊意和尚に師事し、仏教を学ばれた。仏教に深く精通され、特に天台密教を殊の外信仰されていたという史実は、菅公の御事績を描き根本縁起とも称される当宮所蔵の国宝「北野天神縁起絵巻承久本」に、菅公と天台宗や比叡山との御縁の一端が記されていることからよくわかる。

寛弘元年（一〇〇四）延暦寺の僧であった是算が、菅原家の出生の御縁により、北野社の初代別当職に任じられて以来、師資相承し、延暦寺の下に曼殊院門跡が当宮の別当として社務を総括し、明治維新までのおよそ九百年間に亘り歴任するなど、両社寺は歴史的、信仰的に深い御縁で結ばれてきた。

菅公と延暦寺の御縁を伝える「登天天満宮」

延暦寺に伝わる天神信仰として、尊意和尚を襲った菅公の怨霊に対して、かえって和尚の説法に心を悔い改め懺悔した菅公は、将来自らが十一面観世音菩薩となり、祈願する者を災難から守護することを誓い、稲妻の如く白煙となって天に登ったとの伝説が遺されている。

延暦寺にはこの逸話により、登天天満宮が祀られており、天神信仰の崇敬が今も続いている。

そのような歴史も含め、永延元年（九八七）に一條天皇の勅命により斎行された勅祭北野祭にあわせて、菅公の御霊を慰め、世の平安と疫病退散を願う北野御霊会が斎行されて以来、室町期の応仁の乱によつて一時は途絶えたものの、令和二年のコロナ禍を契機に、今一度、疫病退散と世界の安寧を祈願するため、およそ五百五十年ぶりに「例祭・北野御霊会」という形で、この一連の神仏習合形式の祭礼儀式を恒例として再興したのである。

本年も両社寺の歴史と信仰を重んじ、世の平安を願う例祭・北野御霊会を斎行する。



開眼落慶法要



登天天満宮竣工式（令和6年10月9日）

北野祭神輿渡御



北野天満宮祭礼絵巻に描かれる神輿（北野天満宮蔵）



半萬燈祭の北野祭復興に向け
神輿の躯体が完成

「北野祭」は、永延元年（九八七）時の一條天皇が北野天満宮に勅使をつかわされ、祭典を行われたことを起源とする。当時の京都を代表する大祭として行われた盛大な行列や奉祝行事、また祭典に参加する都の人々の様子は、当宮のみならず全国の天神様や博物館などに伝来する絵巻物にも数多く描かれている。

室町時代には、足利將軍家の篤い崇敬もあつて最盛期を迎えるも、京都市を巻き込んだ応仁の乱により祭礼行列は途絶えてしまい、戦火によって神輿も一基焼失してしまう。

一條天皇の思し召しに由来する神事は、その後も「例祭」として毎年九月四日（平成三十年までは八月四日）に斎行されてきたが、御鳳輦の巡幸を中心とした祭礼行列は長く中断されることとなった。この祭礼行列が、明治初年に氏子有志の請願により復興され、今日に至る。

この時、諸々の事情から本来の例祭ではなく、西ノ京の氏子を中心に行われていた秋の収穫を感謝する「瑞饋祭」の行列として行われることとなり、現在も十月一日、四日に御鳳輦の渡御が行われている。

千百二十五年半萬燈祭では、この祭礼行列を元の形に復し、九月四日の例祭にあわせて巡幸することにより「北野祭」の復興を実現するとともに、先述の応仁の乱で焼失した神輿の復興も鋭意進めている。

北野祭神輿

北野祭の神輿は、精巧な技術による鍔金具はもとより、「莊嚴」と賞される、他に類を見ない豪華な織物による装飾品で覆われていたと、古い文献に記録されている。

それらは「三年一請会」と称される儀式をもって三年に一度作り改められてきた。このことが京都における織物業の発展や技術の向上に大きく寄与し、現在に続く西陣織の基礎を形作ったとも言われている。

また北野祭の神輿を担ぐことは、禁裏駕輿丁と呼ばれる宮中の担ぎ手、つまり天皇の御輿を担ぐ人々だけに特権として許されるなど、非常に格式の高い神輿であった。

令和七年度 北野祭神輿渡御

十月一日（水）神幸祭 午前九時 出御祭

午後一時 行列出発

午後四時 着御祭・八乙女舞奉納

十月四日（土）還幸祭 午前十時 出御祭

午後一時 行列出発

午後五時 着御祭

午後三時 后宴祭・八乙女舞奉納

十月五日（日）



祭礼期間中に奉納される八乙女舞



華やかな渡御列

「北野祭」の始まりの神事「北野御手洗祭」斎行

平安京から受け継がれる「御手洗川足つけ燈明神事」
御神宝類の祓い清めに由来「国宝御本殿石の間通り抜け神事」

菅公御歌 「彦星の行きあひを待つかささぎの渡せる橋をわれにかさなむ」

御祭神の菅原道真公と七夕との御神縁は大変深く、

菅公御歌「彦星の行きあひを待つかささぎの渡せる橋をわれにかさなむ」

の御歌は、遠く九州大宰府の地へ左遷された菅公の失意の胸の内を、七夕ゆかりの織姫と牽牛の二星に想いを馳せ、天の川に橋をかけるとされた「かささぎ」に望郷の念を重ねた七夕の御歌として有名である。

幕府も重要視した重儀「御手洗祭」

当宮で斎行される御手洗祭は、全国でも類を見ない大変珍しい神事と伝わる。特に室町期の記録に見られる一連の神事は大変興味深い内容である。

まず七月六日に境内井戸を清め、閼井の水を汲み上げる。この水を御神前に御手水として供えられることで神に供える神聖な水「御香水」となった。その御香水は、御本殿の神仏に捧げられる他、朝廷や公方（足利將軍家）などにその日の内に配られた。御香水は、服すことで全身の穢れを祓い清め、健康無事に過ごすことが出来ると信仰されてきた。

特に国家の運営を担う朝廷や幕府にとって、この信仰は極めて重要視され、戦乱により斎行が困難であると上奏した際には、幕府より何としても斎行するよう返答があったと記録に遺る。

国宝御本殿石の間通り抜け神事

様々な信仰が合わさる、北野の七夕信仰

菅公が御心を寄せられた七夕への信仰は、当宮より生じた天神信仰とやがて深く結びつき、当宮独自の信仰となっていく。具体的には、

「平安京の天門北野に古来継承される祓いと清めの信仰」

「北野御手洗神事を縁とする水の信仰」

「西陣の機織りによる棚機信仰」

「七夕祈願に際する文筆上達・学業成就の信仰」

などの様々な信仰へと派生し、それに合わせて神事の形態も発展してきた。

古来、北方には北極星が瞬き、世界の中心・秩序を象徴する至上の地とされ、当宮が創建された平安京の北西（天門）の北野の地は最も清浄の場所として、まさに神々の聖地、祭祀の場と定められた場所であった。

北野上空には北極星が瞬き、境内西には、大嘗祭の祓えの儀式「荒見川祓」が行われた川として有名な紙屋川、東は御所の御用水として扱われた松葉川が流れ、清水で囲まれた清めの聖地であり、大陸から伝播した七夕信仰が、北野の天神信仰と融合することで、朝廷も信仰する、我が国独自の七夕の源流となった。

平安時代より斎行されてきた御手洗川足つけ神事

祓い清めの聖地であることを象徴する神事として、平安時代に斎行されていたと伝わる御手洗川足つけ神事を、七夕期間に併せて斎行する。この神事は、清らかな水に足をつけることで、心身を清める夏の恒例神事で、祓い清めの聖地にして御手水神事に見られる水の信仰とも結びつく北野の重要な神事である。

また、御本殿に収められる菅公所縁の御神宝類の虫干しに合わせ、通常立ち入ることの出来ない御本殿石の間を公開し、御神宝の展示と共に菅公に非常に近い場所でお参りいただける御本殿石の間通り抜け神事も斎行する。





平安京ゆかりの清め神事 — 御手洗川足つけ燈明神事 —

北野七夕祭オープニング・御手洗川渡始式

日程 八月一日(金)
時間 午後六時

学業大祭(入試合格・学業成就祈願祭)

日程 八月三日(日)
時間 午前十一時
場所 御本殿 ※参列自由

御手洗祭前夕饗

日程 八月六日(水)
時間 午後四時

御手洗祭

日程 八月七日(木)
時間 午前十時

当宮では古来、御手洗祭を七夕信仰になぞらえた星祭としてだけでなく、初秋にあたる四季祭の一つに数え、祓えの神事として斎行してきました。前日に祓い清めた御手洗祭の御神具に、梶の葉、季節の野菜等を御神前に献上するこの祭は、かつて角盟の上で梶の葉に水差しの清水をかけることで「禊」の姿を表し、北野祭の斎行に先立つ「禊祓の御祭」として斎行されてきた歴史ある祭典です。

また、当宮周辺は機織りで有名な西陣の町で、機織りの祖神である「天棚機姫神」を「たなばた様」と称する七夕信仰は篤く、「天神さまの七夕」として人々に親しまれています。

北野萬燈会(境内夜間特別拝観)

日程 八月二日(土)～八月十七日(日)
時間 日没後～午後八時

平安京ゆかりの清め神事

御手洗川足つけ燈明神事

日程 八月二日(土)～八月十七日(日)
時間 午前九時～午後八時

古来、平安京において、大宮御所の御用水は衣笠山(現在の金閣寺周辺)を源泉として、北野天満宮の東側(当時の西大宮川)を経て、北野境内神域で清められて宮中の御用水として用いられました。



五色の御手洗ろうそくに願いの火を灯して参拝



御手洗祭 菅公御遺愛 水差し角盟に梶の葉のお供え



北野七夕祭 境内一円に飾られた七夕笹



特別公開 国宝「御本殿石の間通り抜け」神事

御手洗川足つけ燈明神事とは、清水で守られた北野の御手洗川にて、平安の御代から続く清めの足つけを行い、五色の御手洗ろうそくを献灯することで、御祭神をお慰めし無病息災を願う神事です。

国宝「御本殿石の間通り抜け」神事

日程 八月八日(金)～八月十一日(月・祝)
時間 午前十時～午後八時

国宝に指定されている当宮の「御本殿石の間」において通り抜け神事を行ない、古来「虫干し」の伝統に則り、御内陣の御開帳と合わせ殿内に納められている御神宝・御装束を公開します。
半萬燈祭記念事業により、およそ四百年ぶりに造営当時の美しい様相に復元した国宝「御本殿」内観、天神信仰と御霊信仰の関係を現す重要文化財『木造鬼神像』など、菅公ゆかりの御神宝を特別展示。千有余年に亘る天神信仰の真髄をご覧ください。

北野夏祭り

梅苑内洲浜ライトアップ
北野商店街振興組合出店

八月八日～八月十一日 午後四時～午後八時
八月十五日～八月十七日 午後四時～午後八時

御手洗団子発祥の地 北野御手洗団子茶屋

八月八日～八月十一日 午後四時～午後八時

七夕奉納行事

八月八日 午後五時半～ 西陣和楽園

午後七時～ 京和幼稚園

八月九日 午後六時～ 北野幼稚園

神若会北野天神太鼓会 和太鼓奉納演奏

八月十日 午後六時

篠笛・玲月流 奉納演奏

八月十一日 午後六時

北野天神泣き相撲写真展

日程 八月二日(土)～八月十七日(日)

時間 午前九時～午後四時半

場所 絵馬所



和太鼓奉納 神若会北野天神太鼓会



学業成就祈願の学業大祭



北野萬燈会・境内七夕ライトアップ

菅公御神忌千百二十五年

《鬼切丸 髭切》 太刀拵え奉納プロジェクト 中間報告

プロジェクト実行委員会

北野文化研究所 室長 松原 史

はじめに

令和九年（二〇二七）に迎える当宮の千百二十五年半萬燈祭ならびに宝物殿百周年に向け、萬燈祭ごとに行われてきた御神宝の再調査・保存・修繕の文脈において、失われた鬼切丸の太刀拵えを制作し、奉納することを目指し、令和五年より進めている《鬼切丸 髭切 太刀拵え奉納プロジェクト》。令和五年に「工芸を未来へ」を掲げて活動する技術者集団 KOGEI Next ならびに美術史・工芸史を専門とする京都女子大学前崎研究室の大学生と連携した《鬼切丸 髭切 太刀拵え奉納プロジェクト》実行委員会を組織、十一月に記者発表を行い、令和六年の一月二十五日まで行ったクラウドファンディングでは、多くの皆さまから当初の目標額の四倍近いご支援を頂戴した（図1）。

皆さまからいただいたご支援、ご期待の大きさを実行委員会一同心に刻み、いただいたご支援を最大限活かしてのちに国宝となるような令和の《鬼切丸 髭切》太刀拵えを制作すべく、現在一丸となつて取り組んでいる。

今号並びに来月号ではクラウドファンディング終了から約一年半が経過した現時点での、返礼品実施状況や制作状況、そして令和の技術を持って新たな太刀拵えを制作すべく取り組んできた一端をご報告したい。

◆ 太刀拵え制作に向けて

太刀拵えのデザイン決定に際しては、作り手を中心と

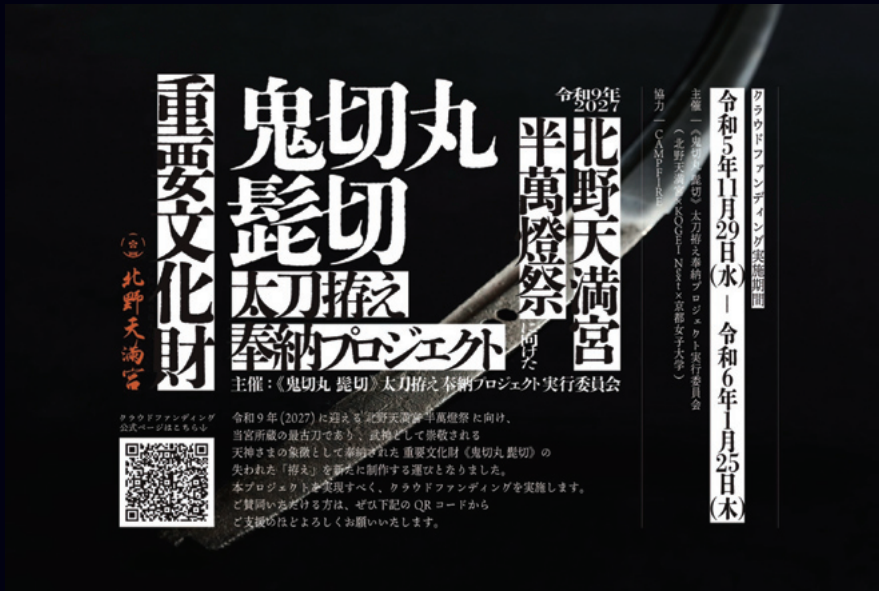


図1-1 刀剣プロジェクトロゴ



図1-2 記者発表の様子



重要文化財《鬼切丸 髭切》



図2 オリジナルの返礼品

した実行委員会で練った案を基礎として、原田一敏先生（福山美術館館長）並びに刀剣専門家の皆様からの歴史的、専門的見地からのご指導を踏まえつつ、慎重に試作を重ねてきた。その全てをここで詳らかにすることはできないが、

- ・平安・鎌倉期の太刀である鬼切丸 髭切ならではの曲線美を生かし、神社に奉納されるに相応しい古様を感じさせる外装であること

- ・令和に太刀拵えを新規制作することの意義を体现すべく全ての芸術品がそうであったように現代性（最新で最良のものであること）を帯びること（リユースの考え方やデジタル時代の新たな技術活用、素材の使用等）

- ・ご支援いただいた方々に喜んでいただけるような鬼切丸 髭切に相応しい太刀拵えであること

- ・重要文化財 鬼切丸 髭切を安全に納めることができるものであること

を念頭に、鬼切丸の歩んできた歴史を内包しつつ、重要文化財である太刀を納めることができる安全性を確保した唯一無二の太刀拵えを実行委員会一丸となって鋭意制作中である。

◆ 返礼品実施報告ならびに進捗報告

オリジナル返礼品の制作と特別ツアーの実施

令和六年春、ポストカードやクリアファイル、限定押形等の返礼品を制作、ご支援者へ送付させていただいた（図2）。また令和六年後半には、夏と秋に分けて、原田一敏先生による鬼切丸鑑賞会（図3）、刀剣お手入れ見学会、神職による北野天満宮特別参拝案内（図4）などの体験型の返礼品に関して心を込めて実施させていただき、概ね



図4 神職による特別参拝案内の様子



図3 原田先生による鬼切丸鑑賞会の様子



図5-2 北野天満宮から輸送した古材(一部)



図5-1 北野天満宮から輸送した古材(一部)

輪島における北野天満宮古材を 使った返礼品の制作状況に関して

好評を得た。残念ながらご参加いただけなかった方々には、別途ご参詣いただく機会を設けていただければと思っている。

令和六年一月に発生した能登半島地震の影響で制作を見合わせていた当宮古材を使った梅皿、梅香合、碗などに関しては、十二月に古材を送付し制作に入った(図5・6)。令和五年十一月、プロジェクト立ち上げの記者発表の際に「工芸を未来へ」を掲げて活動する技術者集団KOGEINextの一員として同席いただいた彦十蒔絵 若宮隆志氏の工房もこの度の震災ならびに続く水害により大きな被害を受け、金沢への工房移転を余儀なくされた。古材を使用した梅皿、梅香合、碗に関しては、能登にとどまり工房の立て直しを選んだ木地職人の皆さんの工房において制作していただき、彦十蒔絵を引き継いだ彦十蒔絵道の新工房にて、現在塗りの過程を行っている(注1)。梅皿に関しては小材よりそのまま制作することができたが、大きな木材を必要とする碗に関しては、木地を組み合わせながら寄木造にて制作いただいた。(図7)

豆皿、梅香合に関しては近日送付予定であり、碗と猪口に関しては現在塗りの過程であるため今少し送付までお時間を頂戴できれば幸いである。

※注1 令和七年彦十蒔絵は代表若宮隆志氏のご逝去により、職人集団彦十蒔絵道(代表)として新たなスタートを切った。本プロジェクトに関しても若宮氏が示した方向性に従い、引き続き彦十蒔絵道の職人の皆様にご参画いただき進めていく。



図6-2 碗木地制作の様子



図6-1 梅皿制作の様子



当宮の古材が生まれ変わった梅皿



図7-1 梅皿制作の様子

北野刀剣図録ならびに プロジェクト記念図録制作状況に関して

『北野刀剣図録』『プロジェクト記念図録』に関しては制作上の遅れが発生しているが、現在鋭意作成中である。お待ちいただいているご支援者の方々には大変申し訳ないが、今少しお待ちいただくようお願い申し上げます。

また令和七年度中を目処に、奉納目録、奉納箱への揮毫のため、支援者の皆様に対して漢字およびお名前の読み仮名の確認を行い、完成版の名簿を作成予定である。

結びに代えて

『鬼切丸 髭切』奉納プロジェクトを立ち上げてより早一年半が経過した。重要文化財の太刀を実際に納めることができる太刀拵えを制作するにあたり、当初の想定以上の困難が待ち受けており、時に文化庁や刀剣専門家の皆様のご指示を仰ぎ、数えきれない打合せと試作を経て、現在方向性は定まり実際の制作工程へと進もうとしている。

太刀『鬼切丸 髭切』の持つ魅力と北野天満宮の歴史、新進気鋭の職人のアイディアと技、日本で古来培われてきた刀剣専門家たちの守り続けてきた技術知識とそれらが混じり合い、そして伝統を未来に繋いでいく際に必要不可欠となってくる最先端の技術との接点を探り、使用を試みながら、本プロジェクトならではの太刀拵え制作を、今後もその時々を生じる課題に対処しながら、慎重に進めてまいりたい。

次号では、重要文化財の太刀を守りつつ太刀拵えを制作するために行ったスキニング技術と、刀剣モデルの作成に関してご報告申し上げたい。



図7-2 完成した椀木地



当宮の古材が生まれ変わった梅香合



総合地球環境学研究所所長
京都大学 前 総 長

山極 壽一さん



今号は、総合地球環境学研究所長で京都大学前総長の山極壽一氏をお招きし、宮司と話し合っ
て頂いた。
(構成・編集部)

いか？」の伊谷先生の一声があり、以来四十年あまり毎年のようにゴリラの調査を行うようになったのです。
宮司 まさに切っ掛けですね。

— 人類は長期間、言葉なしで過ごした

山極 人類の進化史を辿れば、人間と一番近い類人猿であるチンパンジーと共通祖先から分かれて七百万年が経っています。さらに人類が言葉を喋るようになったのは、七百万年から十万年ぐらい前です。

宮司 そのように聞きますと、随分と長い期間、言葉を喋らなかったのですね。

宮司 最初はやはり専門のゴリラのことからお聞きいたしますが、研究の切っ掛けなどをお聞かせ頂ければと思います。

山極 京都大学に入って、今西錦司先生が動物社会学を創始され「サルにも文化がある」との話に面白いと思いました。言葉を喋らない動物には社会も文化もない、というのが当時の常識でしたから。触発されてニホンザルの研究を始めました。日本各地を歩き、鹿児島県の屋久島には九カ月間移住してサルを観察しました。動物園などで見えるサルとは異なり、様々な鳴き声を出す野生のサルの美しさに感動しましたが、人間の姿にはまだ遠いと思い、人間にもつとも近いチンパンジーやゴリラの研究をしたいと思います。

宮司 そのような経緯で、ゴリラの研究に入られたわけですね。

山極 いえ、1958年から三回にわたり今西先生と私の指導教員だった伊谷純一郎先生が、ゴリラの調査をされましたが、あまり成果が得られなかったんです。その後、アフリカの各国で独立戦争が勃発し、ゴリラの生息域が巻き込まれ、調査が出来なくなっていました。そのうちゴリラの調査研究が出来るようにりましたが、京大の研究者や学生はチンパンジーの研究に集中しており、ゴリラの研究をする人がいません。「君、ゴリラをやってみな

山極 そうです。だから九十九パーセントの進化の歴史は、言葉なしで過ごしてきたというわけです。人間は言葉を喋る前に、高い共感力を身につけていたと考えています。そうさせた理由は大きくわけて二つです。一つは食事という文化をつくったことです。一緒になって食卓を囲む習慣を持つ霊長類は人間しかいません。七百万年前ぐらいに二足歩行ができるようになった人類は、屈強なものが熱帯雨林から草原に出て食物を集め、安全な場所に持ち帰って一緒に食べた。個々の栄養を賄うだけでなく、互いを思い合う共感力を芽生えさせたのです。もう一つ、サバンナに出ることによって子どもが肉食動物の餌食になるため、たくさん子どもを産んで補充しなければならぬ。子どもを早く母乳から離すことで排卵を誘発させた。さらに母親以外のものが赤ん坊の面倒を見る共同保育をする



ゴリラのシルバーバックと対面する (山極氏提供)

るようになり、さらに共感力が強まったわけです。二百万年前ぐらいから脳も発達し、人類は初めて誕生の地アフリカを離れてユーラシアへと進出し、やがて海を越え、新大陸へと足を延ばします。

宮司 壮大な人類の進化の歩みを聞かせて頂き、感動するばかりです。先生は、私たち人類はゴリラに学ぶべきだと、提言されておられますが、そのあたりのご見解をお聞かせ願います。

—ゴリラからの教え、現代に生かさう

山極 「ゴリラは暴力的で残忍」というレッテルが長い間貼られていましたが、群れの中に入り観察すると「ゴリラは、人間以上に平和でやさしく、思いやりのある群れ生活をしている」と感じました。とくに抑制力については、人間はゴリラにはかないません。人間は自分の欲求を抑制しながら暮らしていますが、時としてそれを爆発させて抑えの効かないことがあります。でもゴリラは仲裁が入れば自分の行動をきちんと抑制します。彼らは喧嘩をしても「勝ち負け」をはっきりさせません。そして、仲裁が入れば、それで終わりです。勝ち負けを決めてしまうと、負けた方は恨みを持ち、争いの再燃のもとになる。しかし、引き分けて双方が面子を保つままの喧嘩の終結にはそれがないのです。私たちが参考にしなければならないことをゴリラから教わりました。

宮司 ありがとうございます。戦争を始め、日々争いごとの中にいる私たち人類へのゴリラからの提言として受け止めて頂きます。ここで「神道」のことを申し上げますと、仏教と異なり神道には教義・經典といったものはありません。『日本書紀』の用明天皇の条に「天皇は仏法を信じ、神道を尊びたもう」とあり、ここで初めて神道の名がでてきますが、その基は、自然界すべてのものに靈性を認め、神が宿る、という縄文の頃から息づく日本人の宗教観だと思っています。神職が毎日のように唱える祝詞は「カシコミ、カシコミも申す」で終わっていますが、これは畏敬と感謝と畏怖を表す言葉であり、自然に跪く姿なのです。
山極 なるほど。

—自然との対話が失われた現代

宮司 御祭神の菅原道真公（菅公）の感性から生まれる自然を愛でる詩歌や

考え方を見ていきますと、まさに縄文の心を感じます。私が大好きな菅公の御歌に「心だに誠の道にかなひなば 祈らずとても神や守らむ」という歌があります。もちろん、神に祈るのですが、大切なことは「誠」を実践すること。これこそが神の御心なのだと仰っています。

山極 人類は一万年ぐらい前まで食農生産をする前までは、定住しておらず土地をめぐる争いもなかった。戦争による犠牲者が多かったのは三千年前から五千年前で、農耕・牧畜の時代は、実はひどい戦争はなかった。道具類の発達は繁栄をもたらした一方で、負の側面をもたらした。私が敬愛する山尾三省（故人）という屋久島の農民詩人の講義録が『アニミズムという希望』という本になり出版されています。その中で、彼は現代においても「カミ」



ミ」はいる。それは自分が恐れを抱くもの、畏敬の念を感じるもの、美しいと思ったもの、それらすべてが「カミ」だと。その「カミ」に向かい合う時が、先ほど仰った誠の表れであり、自分の修行である、というようなことを書かれています。昔の人たちは、生き物でなくても、万物あらゆるものと対話して生きてきた。それが、自分の所有物が増え、定住し、仲間との関係が自らの利益を左右したりするうちに、だんだんと自然との対話がなくなり、「カミ」が見えなくなり、現代に至ったのではという気がしてなりません。



宮司 アニミズムの精神・心の喪失ですね。

山極 道真公といえば、たくさんのお歌を詠まれています。日本には『万葉集』を始め、たくさんのお歌集が遺されており、日本人の情緒を表す伝統だったのでしょうか。それによって自然に対する畏敬の念や愛着や美的感覚も磨かれてきたのでしょうか。

宮司 和歌の神でもある菅公を祀る天満宮は、全国凡そ八万の神社のうち一万社を越えます。神話の神を祀る神社が多い中、我々と同じように一度この世に生を受け、没後に、神になられて祀られた神社としては異例の数です。

山極 道真公は不業の死を遂げられ、その後、京都は様々な災害が起こったため、それを防ぐため、神として祀られたと伺っています。

宮司 天満宮の由来について、その辺りが最も重要な部分です。創建当初は、先生が仰る通り疫病や災害を防ぐ、いわゆる怨霊神として祀られますが、やがて、平安京の北西の角にあたる聖地「天門」である北野の地に祀られた菅公は、その霊験あらたかな御神威により、善神に転化し、天神として崇め祀られています。しかし、御生前に『類聚国史』二百五巻の編纂を始め、多くの和歌や詩を遺された卓越した学者、詩人等々の菅公の輝かしい御事績により、学問・芸能の神として、そして我が文化国家の礎を築いた神としての信仰を中心に広く崇敬され、現在に至っています。先生は京都にも長らくお住まいだと伺っておりますが、天神様について何か思い出はありますか。

山極 私は東京・国立市の出身であり、天神さんといえば、子どもの頃、谷保天神によく参り遊んだ記憶が今も残っています。どちらかといえば、参拝というのではなく、格好の遊び場でした。神社の森は、「日本人の心の

ふるさと」として大変大事なものと幼心より感じてきました。

宮司 菅公は、祖父の清公卿が自邸に創設された私塾・菅家廊下にて、たくさんのお僚を育てられた教育者でもありました、京都大学の総長までお務めになられた先生ですが、目指されたことなどを伺います。

山極 一言で申せば、京大の伝統と云える「自学自習」です。学問は人に教えられてその通り学ぶことではなく、自分で問いを立て、自分で学ぶことを探しながら、自分を磨くことです。そのためには「遊び」が必要です。自由な発想は、分野の裾野の枠を超えて様々な経験や知識を持った人たちと交流することによって気づきます。学問は「出会いと気づき」なのです。

― „スマホ・ラマダン“ の提起

宮司 先生は、スマートフォンなどの利便性を認めながらも、このままでは人間は考えることを止めてしまう。とくに子どもたちは、できる限りスマホを持たない方がよいと提起されています。共感するところが多いのですが、ご見解をお聞かせください。

山極 人間は考える動物です。想像する力が人間を発達させてきたわけで、他の動物とは決定的に違う点です。見えないものを見る、聞こえない声を聴く、それによって想像力が高まります。かつて西田幾多郎も指摘しています。スマートフォンは、一方的に人の心の中に入り込み、考えることを先取りして「こうですよ」と指摘してきます。つまり、考える力を失わせているのです。人間は今、スマホやAIといった人工知能によって考える力を奪われつつあるわけです。それを取り戻そうと思えば、一度スマートフォンを閉じてみればよい。私はこれを「スマホ・ラマダン」といっています。

宮司 いわゆる「スマホ断食」ですね。よくわかります。さて先生は、「大阪・関西万博きょうと基本構想」の委員会の座長を務められており、先般新聞に書かれていた文「万博で京都の若者は未来を目指す」（京都新聞）も拝読しました。昨秋、当宮で万博のプレイベントが開かれ「懐の深い日本文化を京都から」と発信しており、嬉しく思いました。改めて万博への想いをお聞かせ下さい。

山極 万博が開かれるまでは色々酷評もありましたが、今回の万博開催には、大変大きな意味があると思っています。一九七〇年、前回の大阪万博のテーマは「人類の進歩と調和」でした。科学技術が花開き人類に輝かしい未来をもたらしてくれる、というもので、そのシンボルが「月の石」でした。それから五十五年が経ち、科学技術に頼っていれば地球は滅びるというのが常

識となり、今回の万博のテーマは「いのち輝く、未来社会のデザイン」で、命が全面に出ました。人間だけでなく、様々な命が光輝くような未来をつくらねばならない、というのがテーマです。これは同時に、万博が国と国との威信を競うようなイベントではなくなったことです。京都構想の座長を務めておりますが、実行部隊として若い人たちを揃え、京都デーのイベントのデザインをしてもらいました。多くの高校生も自主的に参加してくれたことは、大変嬉しく感じています。京都は伝統だけでなく未来をデザインしてくれる若者がいることが証明できました。

宮司 素晴らしいですね。伝統と革新が入り混じる、京都は古くよりそのような都市だと感じます。

山極 日本の文学を世界に紹介して下さった、ドナルド・キーン氏が亡くなられる以前、話をしたことがあります、「京都は過去を捨てていない街」であり、このような都市は世界でも珍しいと仰っておられたのが印象的です。建物だけでなく、食や衣服、人々の立ち居振る舞いに至るまで、昔の暮らしを今に調和させている都市なのだと。

宮司 私の四代前の宮司も、ドナルド・キーン氏と親しかつたらしく、同じような話を聞いたことを覚えています。

山極 京都は、外来のものをうまく調和させることが上手な街と云えるでしょう。

宮司 その通りだと思います。さて最後の質問となりますが、この社報は、修学旅行で当宮を参拝する中学校を中心とする全国の学校にも送っています。最後に若者に向けてのメッセージをお願いします。

― 北野天満宮は自分を省みるのに相応しい場所

山極 心身の変化に応じて世界の見方も社会の見方も変わっていく時だと思



います。そんな時自分の向き合う場所が道真公が祀られている天満宮だということ。仏さんがあるわけではないし、御神体も見えませんが、そこには無限の宇宙が広がっています。先ほど、縄文時代の話も出ていましたが、何も見えないからこそ見える場所といえるでしょう。

神社は、自分というものを考えるのに相応しい場所ではないかと思います。現代社会は、自分と向き合う時間がだんだん少なくなり、情報が乱れ飛び、自分というものがなくなっていく、そんな時代に思えてなりません。大きな宇宙の中、様々な生物が生きているわけで、そのネットワークの中に自分があることを感じてほしいと思います。

宮司 「仏教は信じる宗教だが、神道を感じる宗教」「空気のように、風のように感じなければならない」との宗教学者・山折哲雄先生の言葉が想起される素晴らしい提言でした。

本日は貴重なお話をありがとうございました。

山極 壽一（やまぎわ じゅいち）氏略歴

総合地球環境学研究所 所長

昭和27年東京都生まれ。京都大学理学部卒、同大学院理学研究科博士後期課程単位取得 退学。理学博士。ルワンダ共和国カリソケ研究センター客員研究員、日本モンキーセンター研究員、京都大学霊長類研究所助手、京都大学大学院理学研究科助教、同教授、令和2年まで第26代京都大学総長。人類進化論専攻。屋久島で野生ニホンザル、アフリカ各地で野生ゴリラの社会生態学的研究に従事。日本霊長類学会会長、国際霊長類学会会長、日本学術会議会長、総合科学技術・イノベーション会議議員を歴任。

現在 総合地球環境学研究所 所長、令和7年国際博覧会（大阪・関西万博）シニアアドバイザーを務める。南方熊楠賞、アカデミア賞受賞。

主な著書

『人生で大事なことはみんなゴリラから教わった』（2020年、家の光協会）、『スマホを捨てたい子どもたち野生に学ぶ「未知の時代」の生き方』（2020年、ポプラ新書）
『京大というジャングルでゴリラ学者が考えたこと』（2021年、朝日新書）
『猿声人語』（2022年、青土社）、
『共感革命 社交する人類の進化と未来』（2023年、河出新書）
『森の声、ゴリラの目 人類の本質を未来につなぐ』（2024年、小学館新書）
『争いばかりの人間たちへゴリラの国から』（2024年、毎日新聞出版）
『老いの思考法』（2025年、文藝春秋）など多数

千百二十五年半萬燈祭に寄せて

今こそ知るべき「北野天満宮とは何か」



菅原道真公はその優れた功績から神として祀られ、菅公をお祀りする神社は全国で凡そ一万二千を数える。全国に広がる天神信仰であるが、その根本をたどると北野天満宮につながる。天曆元年（九四七）に村上天皇の勅命で当宮が創建されて以来、天神信仰の発祥の地として多く役割を担い、またその過程で天神信仰は非常に複雑で奥深い信仰となり、やがて全国に広まっていったわけであるが、令和九年に迎える御神忌千百二十五年半萬燈祭に向けて、創建より現在に至るまでを今一度振り返り、天神信仰の理解を深めるとともに、次の世代へと天神信仰のすばらしさを残すべく、複数回に渡って北野天満宮、天神信仰について特集を組む。第一回目となる今回は、菅公をお祀りする当宮は、どのような思いで創建されたのか、その歴史を繙く。

都を守護する聖地 北野

天神信仰に触れる前に、菅公が天神としてお祀りされた北野の地が、朝廷にとってどれだけ重要な場所であったかについて振り返る。

当宮が創建された北野の地は、当時の内裏大極殿から見て天門の方角に位置する。天門とはもともと古代中国から発祥した信仰である。古代中国では天門は道教における最高神である天帝（天皇大帝）の住まう宮殿の門を意味しており、宮殿は北極星だと考えられてきた。こうした信仰が日本に入ってきた際、天帝は天皇の守護神として見られるようになり、太陽や月、星（北極星）の運行が天皇・国家・国民の平和と安寧にかかわるとする「三辰信仰」が生まれた。平安京に遷都した桓武天皇は、とりわけ天門を重要視しており、北野天満宮創建以前に北野の地に祀られていた北野神社（地主神社）では、宮中と同じく天神地祇の神々をお祀りし、国家の安寧を祈願し、国家の重事で



地主社 かつては北野神社と呼ばれ境内で最も古い御社

ある遣唐使派遣に際しては、その無事を祈るべく祭祀が行われてきた。雷除けに加え、五穀豊穡を祈願されてきた火之御子社は、藤原家が代々祭祀を行ってきたおり、奇しくも藤原時平の父親である藤原基経も奉仕していた記録が遺っているなど、当宮創建以前より朝廷によって非常に重要な場所とされてきた。

天皇の勅令により創建された北野天満宮

菅公の御生涯については多くの方が承知されており、事細かな御事績は他に譲るが、決して身分の高い家柄ではないにも関わらず、その優れた才能と、誠の心によって宇多天皇、醍醐天皇に重用され、ついには右大臣まで上り詰められたお方である。主な御事績として挙げるとすれば、遣唐使を廃止し、平安時代を代表する文化である国風文化の醸成に多大な貢献をされたこと、宇多天皇の勅令により六国史を分類した『類聚国史』の編纂

があげられる。しかし、そうした類まれな才能や功績を妬む人間により、謂われのない罪を作り上げられ、大宰府に左遷されることとなり、失意のうちに薨去された（昌泰の変）。通常ではあれば、悲劇の人物と歴史に記録されるだけであろうが、菅公のお力は常人を遥かに超えるものであった。

菅公薨去後、都には疫病など様々な災いが降りかかった。都の人々はこの災いは無実の罪で左遷された菅公の怨霊によるものと噂した。また、菅公左遷に際し主体となった藤原時平や、協力したときれる人物が相次いで没し、ついには醍醐天皇の皇子にまで災いが降りかかる。左遷の宣命を下した醍醐天皇もいよいよ菅公の御怒りを恐れ、宣命を破棄し、元の右大臣に復したうえ、正二位に叙した。しかし、災いは収まることがなく、ついには天皇の御殿である清涼殿に落雷し、朝議中の要人に多大な被害が生じた。またその場にいた醍醐天皇もその三か月後に崩御することとなる。

清涼殿への落雷、また平将門の乱など朝廷が混乱していた最中の天慶五年（九四二）、当時西ノ京に住んでいた多治比文子に対し、菅公より右近の馬場へ自身を祀るよう御神託が下された。しかし当時貧しかった文子は自身の邸宅の祠でお祀りするのが精いっぱいであった。その後、比良宮



火之御子社 古式に倣い浄火を灯してお供えする

（近江）の神主の子、太郎丸にも一晩に千本の松を生やすので、そこに祀るよう御神託が下され、右近の馬場に千本の松が生えた。ついに文子、太郎丸の父の神良種、朝日寺の僧最鎮らにより菅公がお祀りされ、天暦元年（九四七）に醍醐天皇の皇子、村上天皇により大内裏の天門に位置する聖地、北野に菅公がお祀りされた。

天門を統べる天神となる

天門が天皇にとってどれだけ重要な場所であったかは前述の通りであるが、天門にお祀りされたのは御神託があったこともそうだが、北野の地、ひいては天門に対する信仰が大変重要であった。

古来、鬼門より生じた災いは人門、裏鬼門を経る過程で祓われ、最後に天門で祓い鎮められるとされ、歴代天皇は宮中にて四方拝と呼ばれる祭祀を行うとともに、四方に重要な神を祀った。特に天門は、最後に災いを封じる場所であることから、祓清めの聖地とされてきた。

また、天門とは字のごとく、あらゆるものが入りする門であるとの信仰から、良いものだけを通し、災いなどのよからぬものを防ぐのも、天門にお祀りされる神への重要な祈りであった。都を襲った災いを菅公の怨霊の仕業と恐れた朝廷は、祓いの聖地天門に菅公をお祀りし、怨霊としての菅公をお鎮めするとともに、その強大な力を以って天門を統べ、国を安んじる、皇城鎮護の神として祀ったのである。それは、さらに四十年後の一條天皇の御代に、より顕著となった。

藤原道長や紫式部の活躍した時代の永延元年（九八七）一條天皇は北野天満宮に勅使を派遣するとともに、菅公に「北野天満大自在天神」「北野天満宮天神」の御神号を贈った。かつて下臣であった者を祀る社に勅使を派遣するのは前代未聞のことであった。御神号の中には天門を思わせる「天」の字と共に、天皇の許があつて初めて使用が許される「宮」という字が入るなど、名実ともに天門を統べる大変重要な国家の神として信仰されていたことがわかる。

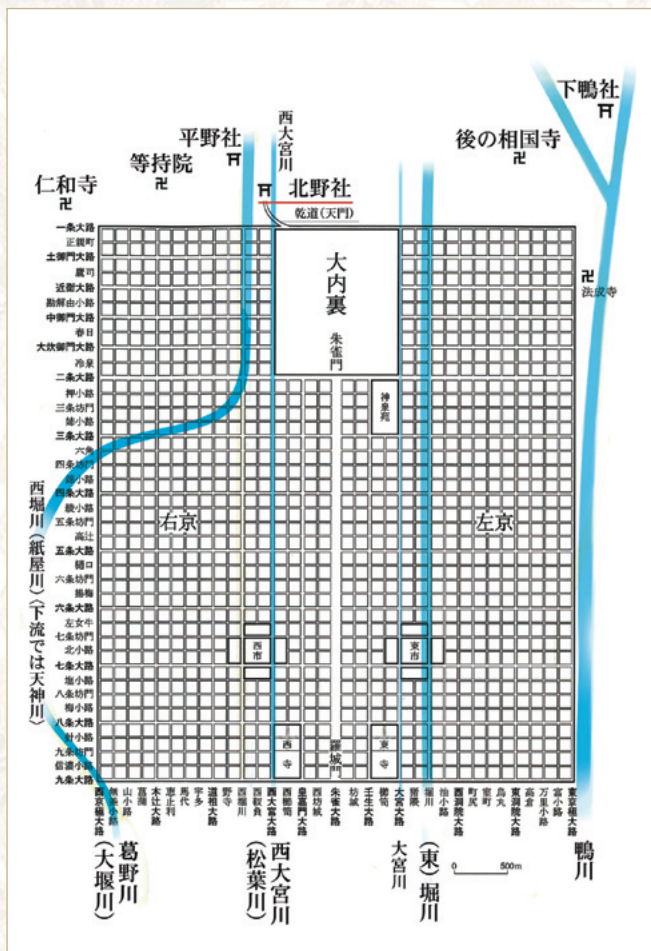
祓い清めの聖地 北野天満宮

北野の地が朝廷からいかに重要視されてきたかは、前述の史実で理解いただけたであろうが、その北野に祀られた当宮の重要性は、ますます上がっていくのであった。

北野天満宮の境内には、そばを流れる紙屋川を筆頭に貴重な河川が流れていた。現在でも境内には十を優に超える井戸があり、豊富な水を湛えているが、創建当時は今以上に多くの井戸があったと伝わる。こうした水は、当宮の祭祀はもちろん、国家祭祀にも重要な役割を担っていた。

天皇の御代替わりに斎行される一世一代の大嘗祭では、祭祀に奉仕する者が紙屋川で禊を行う荒見川祓が行われてきた。境内からは、大嘗祭の際に造営された鳥居の礎石が見つかっていることから、大嘗祭に際して北野天満宮で行う祓えがいかに重要であったかがわかる。

また、七夕に併せて斎行される御手洗祭では、御手水神事と称し、境内で汲み上げた水を内陣にお供えし、将軍家や朝廷に献上していたとの記録



北野御手水神事ゆかりの梶の葉・角盃・水差し

が遺る。この祭典は非常に重要視され、室町時代、祭典の斎行が困難であることを幕府に上奏した際、何としても斎行するよう通達が出たほどである。

また、梅についても祓い清めの信仰が篤い。現在でも全国より授与の為に訪れる人がいる大福梅だが、その起源は当宮創建当時迄さかのぼる。菅公を天門にお祀りした村上天皇は、当時流行していた病に冒されることとなる。加持祈禱を行っても効果がなかったが、当宮境内でとれた梅を茶に浮かべ服したところ、たちまち平癒したという。こうした話

が民衆に伝わり、「王が服した梅」に縁起の良い字を当て、「大福梅」と呼ばれ、元旦に服すと一年間健康に過ごせるとして、正月の祝膳に欠かせない縁起物として親しまれている。また境内の梅の枝は、天神様の御神徳の宿ったものとして、梅の実と合わせて幕府や朝廷にしばしば献上されていた。『北野社家日記』には將軍自らが梅の出来具合を心配している記述があるなど、特に信仰の篤かった室町幕府においては、先に述べた御手水神事と合わせ、將軍家中において北野の祭祀や梅の枝といった品々は將軍家に降りかかる災いを祓い清め、幕府の安泰を祈るうえで欠かせないものであった。

しかし、都に開かれた室町幕府はともかく、鎌倉幕府や江戸幕府といった都から離れた場所に開かれた幕府も、当宮を大変重要な神社と定めてい

た。これは一体なぜなのか、それは当宮の創建の由縁でもある皇城鎮護の守護神であるからである。

国家を安んじる神 北野天満宮天神



戦国武将らが奉納した数々の燈籠を納める御本殿石の間

た。蒙古撃退に際し戦勝の御礼として敵の使用していた兜が奉納され、現在も宝物殿内に収められている。豊臣秀吉公は当宮境内にて北野大茶湯を催し、朝鮮出兵の際当宮で戦勝を祈願しており、息子秀頼公に御本殿の造営を遺命している。徳川家康公は夢に天神様が出てきたからと当宮に夢想連歌を奉納しており、五代將軍綱吉公や、八代將軍吉宗公はそれぞれ当宮の修造を行っている。また將軍の代替わり等で江戸に使者を

当宮の創建の由来は

先述の通りで、天門を統べ、国を安んじる神としてお祀りされた。これは言い換えれば国家を統治するものにとつてすべからずお祀りすべき非常に重要な神であるといえる。当宮は創建以来、多くの権力者の崇敬が寄せられてきたが、それは天神様の様々な御神徳もあろうが、一番はやはり国の守護神であるところが大きいだろう。

例えば鎌倉時代、蒙古襲来の折には朝廷より当宮に奉幣使を派遣され必勝祈願がなされ

派遣した際には、將軍に直々にお目見えしている記録も日記に残っている。これは国家の運営を担う者として、北野天満宮、天神様を大変重要視していたからに他ならない。

様々な信仰が融合する天神信仰

北野の地で天神となられた菅公は、創建の由縁から皇城鎮護の守護神として、また祓い清めの聖地である天門に祀られたことから厄除の神として信仰される。しかし、生前の様々な御事績や伝承、崇敬者から寄せられた様々な願いが複雑に融合し、今日の天神信仰が形成されていくこととなった。平安時代の雅やかな時代から、武人による武家社会まで、時代に合わせて様々な形へと変貌していく天神信仰の多様性は、そうした信仰にまつわる様々な神事や御神宝からも見て取れる。次号では、一口に天神信仰といえども、一体どれだけの信仰の様相が含まれているのか、詳細を繙いていきたい。



徳川家康夢想連歌



徳川家綱公奉納 金銅釣燈籠

裏千家淡交会近畿第一地区の記念茶会 風月殿大広間などに五百人が集う

千宗室家元もご来駕

青もみじ観賞の茶人も多く



境内は終日茶人で賑わった



裏千家千宗室家元もご来駕



風月殿奥ノ間での濃茶席の様子



風月殿広間では薄茶席が設けられた

一般社団法人茶道裏千家淡交会の近畿第一地区（佐竹力總支部長）主催による「京の都っ
どい記念茶会」が五月十六日、風月殿大広間などで催され、終日、裏千家の茶人で賑わった。
淡交会近畿地区では、近畿全地区の会員が集う近畿地区大会がコロナ禍によって開かれな
いままになっており、近畿第一地区の呼びかけによって、この日、同地区四支部約五百人が
集う記念茶会となった。コロナ禍以降では最大の規模という。
浮田一蕙筆の『北野大茶湯図』が掲げられた大広間を始め、奥ノ間・中ノ間に濃茶・薄茶
の両席が設けられ、着飾った裏千家の茶人が終日、優雅に一碗を楽しんだ。
午前中には、裏千家千宗室家元もご来駕され、両席を回られた。また、文道会館ホールに天
心席が設けられ、青もみじ公開中の史跡御土居内も和服姿の茶人が、鮮やかな青葉を目にしな
がら紙屋川沿いを散策する姿が終日見られた。
この茶会の実行委員長を務められた西村彦兵衛氏（十代当主・株式会社象彦代表取締役
役社長）は「皆さま方に楽しんで頂けた茶会となり喜んでいきます」と話されていた。



管公
御歌

このたびは幣もとりあへず手向山
紅葉の錦神のまにまに

史跡御土居「青もみじ」公開、今年も活況を呈す

外国人観光客も多数入苑 「幻想的で素晴らしい」と、ライトアップも好評



緑の中に山吹の黄色が映える



青もみじとともに国宝の御本殿も見られる

年々人気が高まっている史跡御土居「もみじ苑」の青もみじ公開が、今年も四月十日から六月二十二日まで行われた。インバウンドによる外国人の入苑者が激増し「素晴らしい」と日本の初夏の美を絶賛する声が連日聞かれた。

当宮の「青もみじ」公開の人気が高いのは市内でも数少ない御土居の中にあるからだ。

御土居は、豊臣秀吉公が天正十九年（一五九二）に洛中に築いた土塁で、明治以降都市化とともに大半が消え

ゆく中、当宮境内には、築造当時の姿が遺り、約三百五十本のもみじなどがあることから史跡御土居「もみじ苑」として公開し

ている。当初は、色づきが楽しめる秋と梅苑開苑中に限って公開していたが、観光客から「折角参拝したのに御土居が閉まっていて残念。他の季節も開苑を」とする声が年々強まり、平成二十七年から、もみじの若葉が美しい春から初夏にかけ「青もみじ」として御土居を公開している。

「青もみじが美しい」という入苑者の声は年を追うごとに



空を覆うように広がる青もみじ



明かりに照らされ幻想的な光景が広がる

強まっているが、青もみじを愛でたのは今に始まったことではない。鎌倉時代の公家藤原為家は「若楓」として美しさを和歌に詠み、鎌倉時代から桃山時代の歌人・随筆家の兼好法師は『徒然草』の中で「卯月ばかりの若楓、すべてよろずの花紅葉にもまさりてめでたきものなり」(百三十九段)と、その美しさを称えている。江戸時代の俳人・与謝蕪村にも、若楓をよんだ俳句があり、「若楓」「青楓」は初夏を表す季語として使われている。

今年も多くの参拝者の入苑があつたが、ひと際目立ったのは外国人の姿。青もみじの美しさを愛でながら散策する姿が連日見られた。

昨年からはじめた青もみじのライトアップも四月二十五日から五月六日まで行われた。日中とは大きく異なる雰囲気を楽しめるライトアップは今年も大変好評で、「夜の青もみじ観賞も幻想的で素晴らしい」「来年もまた来ます」などなどの感想が聞かれた。

京都三大学合同交響楽団 アンサンブルコンサート開催



青もみじの鮮やかな緑に包まれた史跡御土居の舞台にて開催され、入苑者を美しい調べの世界へ誘った。

毎年青もみじの時期に行われる恒例の演奏会で、今年は京都府立大学、京都工芸繊維大学、立命館大学、京都大学の学生六人によつてヴァイオリン、ヴィオラ、チェロ、ホルンが奏でられ、誰もが耳にしたことがある名曲ばかりを六曲演奏した。青もみじに包まれたさわやかな空気の中に音楽が加わり、屋外ならではの特別な空間となり、入苑者は耳を澄ませて楽しんでいた。

京都府立医科大学、京都府立大学、京都工芸繊維大学を中心とした関西の学生により運営される京都三大学合同交響楽団によるアンサンブルコンサートが五月三日、

Kyoto Music Caravan 2025 開催 打楽器の調べが 文道会館ホールに響き渡る



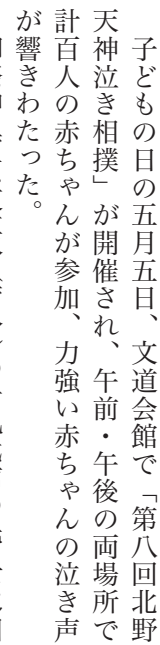
のステージが五月六日、北野天満宮文道会館ホールにて開催された。

前回(令和四年度)は、ピアノの三重奏が奏でられたが、今回は打楽器によるアンサンブル。イヴァントレヴィノ作曲の「2+1」や三木稔作曲の「マリンバスピリチュアル」等、打楽器の名曲が凡そ一時間次々と奏でられ、聴衆を魅了した。



京都各地をクラシック音楽で満たす一大イベント「Kyoto Music Caravan 2025」の主催・京都コンサートホール(公益財団法人京都市音楽芸術文化振興財団)、京都市が開幕し、最初

「カ一杯泣いて元気に育て」
特設土俵に赤ちゃんの泣き声響きわたる



御祭神、菅原道真公（菅公）の十九代前の先祖は「相撲の祖」と仰がれる野見宿禰のみすね公であり、当宮においては末社「野見宿禰社」でお祀りされている。江戸時代は京都にも凡そ四十の相撲部屋があり、当宮の近くにも相撲部屋があつたと伝わる。菅公の子孫にあたる五條家は、京都大相撲で横綱の免許発行を担つていた。また、二十五年毎の式年大祭「萬燈祭」では、大相撲の横綱の土俵入りが奉納されるのも習



ているなど
 当宮と相撲
 の関係は大
 変深い。
 そうした
 御神縁から、
 元気で明る
 く育つてほ
 しい、との
 願いを込め
 て「泣いた
 ら勝ち」の
 泣き相撲が
 始まったも
 ので、コロ
 ナ禍による
 三年間の休



会場は満員御礼となった

京都両洋高等学校女子相撲部による迫力ある四股踏み

場を挟んで、今回が第八回目を数える場所となつた。

会館内に特設の土俵が作られ、会場内では相撲甚句が流れ、「満員御礼」の幟が掲げられるなど、雰囲気も十分。開会に当たり宮司が当宮と相撲との関わりを話し「力一杯泣いて元気に育つて下さい」と挨拶、特別協力の京都府相撲連盟の平塚靖規会長も「参加の赤ちゃんのなかから小中学校で相撲の選手が出てくれるとうれしいです」とエールの言葉を贈った。



横綱 岸本 悠佑 (ぎしもと ゆうすけ) さん
大関 梅原 蒼依 (うめはら あおい) さん
山中 明來 (やまなか あき) さん

しの声を受け、額に鉢巻を締め化粧まわしをつけた赤ちゃんが両親らに抱かれて次々登場し、軍配を手にした行司役の奉行の「はっつけよい！」の掛け声で勝負が始まった。土俵に上がる前か

〈午後の部〉

葵	(たなか あおい)	さん
京	(さきま きょう)	さん
梓	(いすみ あずさ)	さん

で客席を見回す赤ちゃんもいるなど様々。早く泣くのが勝者ではなく泣きつぷりで勝ちが決まるといふ当宮泣き相撲のルールがあり、奉行が二人の赤ちゃんの顔を見比べて軍配を上げると

場内はどつと沸いた。午前場所、午後場所とも横綱や大関、関脇などの入賞者が決まった。

場所の合間には、今年も京都両洋高校の女子相撲部員が四股の踏み方を披露し、解説も行われた。

参加の赤ちゃんは、京都を中心に全国から集まっております。取り組み後は、両親や祖父母などから「よく頑張ったね」などと労いの言葉を掛けられ、化粧まわしをつけ記念写真を撮っていた。



当宮右近の馬場駐車場 今年もスーパーカーなど85台が集結

オーナーら昇殿参拝して安全祈願 天神太鼓会も安全啓発の和太鼓奉納

平安時代初期には日本最初の競馬場だったと伝わる当宮右近の馬場駐車場に四月二十七日、ランボルギーニやフェラーリを始めとするスーパーカーやクラシックカー八十五台が集結、オーナーらは御本殿に昇殿し、交通安全を祈願した。

「Kyoto スポーツカー・ヘリテージ・ギャザリング&パレード」の催しで、御祭神である天神さまのお使いがランボルギーニのエンブレムと同じ「牛」というご縁から、自動車評論家の西川淳さんらスーパーカー愛好家が「交通安全と車を通じての人の輪の広が



85台のスーパーカーが並ぶ光景は圧巻



文道会館ではトークショーも行われた

ず御本殿に昇殿参拝し、無事故で過ごせるよう祈願した。また、駐車場では車両の清祓を受けた。

この日の駐車場は、さながら豪華車両の展示場のように賑わい、参拝者らは興味深げに車に見入り、オーナーに様々な質問を投げかける光景があちこちで見られた。



交通安全を祈願しお祓い

りを求める「行っているこの時期の恒例行事。今年で十年目となるが「八十五台もの集結は過去最高」という。各車のオーナーらは、ま

啓発の和太鼓を十曲にわたって奉納、各車のオーナーや青もみじ参拝者らが足を止めて聞き入った。また、会館内では、西川さんと車の写真を専門とするカメラマン、タナカヒデヒロさん、ドライビングシューズデザイナー、宮部修平さんとのトークショーも行われ、たくさんの方が聞き入った。

「再来年は天満宮の千二百二十五年半萬燈祭です。それに向けて、来年もこの催しを盛大に行うつもりなので皆さんよろしく」との西川さんの挨拶で今年の催しは締めくくられ、主催者側が選んだ約二十台の車がパトカーの先導で交通安全パレードを実施、門前町である古風豊かな上七軒通りを彩った。

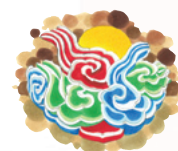


上七軒の古い町並みをスーパーカーがパレード

参拝の修学旅行生に天神さまのご加護を



修学旅行生の聖地として高い人気の当宮
篤い祈りの場の御本殿
生徒の弾んだ声こだまする境内



「成績がよくなりますように」
「志望校へ合格させて下さい」
など、天神さまの御加護を願う
修学旅行生の昇殿参拝が、今年
も春先から夏にかけて増え、御
本殿内は連日、篤い祈りを捧げ
る場となり、境内は、昇殿の順
番を待つ生徒の弾んだ声に包ま
れた。

学問の神・菅原道真公を祀る
当宮は、修学旅行生の聖地とし
て知られており、毎年、中学校
を中心に全国の小・中・高校か
らのお参りが多い。それも単な
る社寺参観にとどまらず、御本
殿に昇殿して学業の向上や志望
校合格を天神さまに祈る学校の
数が多いのが特徴となっている。
修学旅行生の昇殿参拝は、春と
秋に集中しており、この時期の
境内の賑わいは、一般参拝者か
ら「さすが学問の神さま、天神さん」と言わしめるほどの賑わいとなる。

ところが、新型コロナウイルス感染症の流行によって令和二・三年は修学
旅行生の参拝はほぼ中止となり、令和四年、感染の落ち着きとともに昇殿参
拝が戻り始め、令和五年以降、ようやくコロナ禍前の賑わいを取り戻しつつ

ある。

今年の昇殿参拝は、例年通り二月から始まり、同月八校（十五クラス）、三
月三校（五クラス）、四月百二十六校（二百八十二クラス）、五月二百四十五
校（六百十三クラス）、六月二百六校（五百十クラス）、七月四十二校（八十二
クラス）、合わせて六百三十校（千五百七クラス）となり、コロナ開け以降
の最高数を記録した昨年とほぼ同数の数となった。

昇殿参拝数のもっとも多かったのは五月二十二日の五十八クラスで、御本
殿前の中庭には、順番を待つ中学生らであふれ、談笑する元気のよい声が響
きわたった。「先輩が志望の高校に合格したので私もあやかりたい」という
昇殿待ちの女子生徒もいれば「手を合わせていたら不思議に頭がすっきりし
た」と、参拝を終えて大声で話す男子生徒もいた。

昇殿参拝した学生を地域別でみると、埼玉県、千葉県、静岡県などが多くみ
られた。

修学旅行参拝者数

（令和七年二月一日～七月十五日）但し、お申し出を頂いた数

二月	昇殿参拝	八校	一五クラス	自由参拝	七一校
三月	昇殿参拝	三校	五クラス	自由参拝	六八校
四月	昇殿参拝	一二六校	二八二クラス	自由参拝	一九九校
五月	昇殿参拝	二四五校	六一三クラス	自由参拝	四六〇校
六月	昇殿参拝	二〇六校	五一〇クラス	自由参拝	三一五校
七月	昇殿参拝	四二校	八二クラス	自由参拝	八三校
合計	昇殿参拝	六三〇校	一五〇七クラス	自由参拝	一一九六校

此の度の参拝を心の支えとされ、
また天神さまの御加護によりご祈願の成就をお祈り申し上げます。

修学旅行特別昇殿参拝学校一覧（順不同）

宮城県

古川学園中学校

1クラス

山形県

三友看護専門学校

1クラス

福島県

須賀川市立義務教育学校稲田学園

1クラス

いわき市立勿来第二中学校

1クラス

いわき市立磐崎中学校

1クラス

二本松市立岩代中学校

1クラス

福島看護専門学校

1クラス



茨城県

つくば市立みどりの学園義務教育学校

3クラス

つくば市立秀峰筑波義務教育学校

3クラス

ひたちなか市立勝田第二中学校

6クラス

ひたちなか市立勝田第三中学校

4クラス

高山学園つくば市立高山中学校

4クラス

ひたちなか市立勝田第一中学校

2クラス

小美玉市立小川北義務教育学校

2クラス

ひたちなか市立那珂湊中学校

3クラス

つくば市立みどりの南中学校

1クラス

茨城県立古河中等教育学校

3クラス

ひたちなか市立佐野中学校

3クラス

ひたちなか市立大島中学校

2クラス

ひたちなか市立田彦中学校

2クラス

常陸太田市立金砂郷中学校

2クラス

常陸大宮市立大宮中学校

4クラス

土浦市立土浦第六中学校

4クラス

笠間市立友部第二中学校

3クラス

牛久市立牛久第一中学校

3クラス

小美玉市立美野里中学校

1クラス

常陸太田市立水府中学校

1クラス

常陸太田市立里美中学校

1クラス

東海村立東海南中学校

6クラス

つくば市立豊里中学校

4クラス

筑西市立下館西中学校

4クラス

つくば市立高崎中学校

3クラス

結城市立結城南中学校

3クラス

水戸市立双葉台中学校

3クラス

筑西市立下館南中学校

3クラス

筑西市立明野五葉学園

3クラス

北茨城市立常北中学校

2クラス

日立市立河原中学校

1クラス

笠間市立友部中学校

6クラス

水戸市立見川中学校

6クラス

鹿嶋市立鹿島中学校

5クラス

東海村立東海中学校

5クラス

つくば市立桜中学校

4クラス

阿見町立朝日中学校

4クラス

筑西市立関城中学校

4クラス

那珂市立第一中学校

4クラス

日立市立立王中学校

4クラス

阿見町立竹来中学校

3クラス

茨城町立青葉中学校

3クラス

笠間市立岩間中学校

3クラス

城里町立常北中学校

3クラス

常総市立石下中学校

3クラス

水戸市立第一中学校

3クラス

筑西市立協和中学校

3クラス

日立市立滑川中学校

3クラス

日立市立松風中学校

3クラス

日立市立多賀中学校

3クラス

利根町立利根中学校

3クラス

高萩市立秋山中学校

2クラス

高萩市立松岡中学校

2クラス

水戸市立石川中学校

2クラス

水戸市立第四中学校

2クラス

石岡市立園部中学校

2クラス

那珂市立瓜連中学校

2クラス

那珂市立第二中学校

2クラス

美浦村立美浦中学校

2クラス

鹿嶋市立高松中学校

1クラス

水戸市立赤塚中学校

1クラス

水戸市立第三中学校

1クラス

水戸市立緑岡中学校

1クラス

筑西市立下館中学校

1クラス

日立市立台原中学校

1クラス

稲敷市立東中学校

2クラス

茨城県立茨城学園

1クラス

城里町立桂中学校

1クラス

栃木県

那須烏山市立南那須中学校

3クラス

高根沢町立阿久津中学校

5クラス

宇都宮市立宮の原中学校

4クラス

小山市立小山第二中学校

4クラス

宇都宮市立星が丘中学校

3クラス

下野市立南河内小中学校

3クラス

那須烏山市立烏山中学校

3クラス

野木町立野木第二中学校

3クラス

宇都宮市立泉が丘中学校

2クラス

小山市立小山第三中学校

2クラス

宇都宮市立若松原中学校

1クラス

宇都宮市立上河内中学校

1クラス

宇都宮市立瑞穂野中学校

1クラス

小山市立絹義務教育学校

1クラス

宇都宮市立一条中学校

4クラス

宇都宮市立豊郷中学校

4クラス

宇都宮市立姿川中学校

3クラス

宇都宮市立宝木中学校

3クラス

宇都宮市立陽北中学校

3クラス

栃木市立栃木東中学校

3クラス

宇都宮市立古里中学校

2クラス

宇都宮市立陽南中学校

2クラス

栃木市立栃木南中学校

2クラス

那珂川町立馬頭中学校

2クラス

宇都宮市立河内中学校

1クラス

宇都宮市立雀宮中学校

1クラス

宇都宮市立清原中学校

1クラス

宇都宮市立田原中学校

1クラス

宇都宮市立陽西中学校

1クラス

下野市立国分寺中学校

1クラス

壬生町立南犬飼中学校

1クラス

栃木市立大平南中学校

1クラス

小山市立大谷中学校

5クラス

小山市立小山中学校

4クラス

壬生町立壬生中学校

4クラス

栃木市立東陽中学校

4クラス

矢板市立矢板中学校

4クラス

宇都宮市立旭中学校

3クラス

下野市立石橋中学校

3クラス

市貝町立市貝中学校

3クラス

栃木市立吹上中学校

3クラス

栃木市立大平中学校

3クラス

栃木市立藤岡中学校

3クラス

益子町立田野中学校

2クラス

小山市立乙女中学校

2クラス

小山市立美田中学校

2クラス

芳賀町立芳賀中学校

2クラス

益子町立益子中学校

1クラス

小山市立豊田中学校

1クラス

真岡市立長沼中学校

1クラス

真岡市立物部中学校

1クラス

栃木市立寺尾中学校

1クラス

栃木市立都賀中学校

1クラス

日光市立日光中学校

1クラス

矢板市立片岡中学校

1クラス

鹿沼市立東中学校

4クラス

小山市立桑中学校

4クラス

作新学院中部

5クラス

群馬県

みなかみ町立みなかみ中学校

4クラス

みどり市立大間々中学校

2クラス

高崎市立吉井中央中学校

1クラス

高崎市立群馬中央中学校

1クラス

伊勢崎市立第三中学校

5クラス

みどり市立等懸中学校

2クラス

伊勢崎市立宮郷中学校

2クラス

高崎市立南八幡中学校

2クラス

沼田市立沼田西中学校

2クラス

太田市立毛里田中学校

2クラス

安中市立松井田中学校

1クラス

前橋市立みづき中学校

桐生市立川内中学校	2クラス
高崎市立大類中学校	2クラス
高崎市立塚沢中学校	2クラス
高崎市立八幡中学校	2クラス
昭和村立昭和中学校	2クラス
太田市立城西中学校	2クラス
嬭恋村立嬭恋中学校	2クラス
桐生市立新里中学校	1クラス
高崎市立高松中学校	1クラス
高崎市立倉渕中学校	1クラス
渋川市立古巻中学校	1クラス
沼田市立多那中学校	1クラス
沼田市立白沢中学校	1クラス
前橋市立第五中学校	1クラス
前橋市立第七中学校	1クラス
前橋市立粕川中学校	1クラス
太田市立強戸中学校	1クラス
太田市立南中学校	4クラス
大泉町立南中学校	3クラス
藤岡市立北中学校	2クラス
太田市立旭中学校	1クラス
富岡市立西中学校	1クラス
富岡市立北中学校	1クラス



●埼玉県

川越市立高階西中学校	2クラス
富士見市立水谷中学校	1クラス
さいたま市立東浦和中学校	4クラス
さいたま市立尾間木中学校	3クラス
さいたま市立美園南中学校	3クラス
さいたま市立慈恩寺中学校	2クラス
さいたま市立大宮東中学校	2クラス
さいたま市立大谷口中学校	2クラス
さいたま市立八王子中学校	2クラス
さいたま市立与野南中学校	2クラス
さいたま市立大久保中学校	1クラス
さいたま市立第二東中学校	1クラス
さいたま市立与野東中学校	1クラス
春日部市立春日部南中学校	1クラス
春日部市立春日部中学校	7クラス
さいたま市立植竹中学校	3クラス
さいたま市立馬宮中学校	3クラス
さいたま市立岩槻中学校	2クラス
さいたま市立土屋中学校	2クラス
さいたま市立日進中学校	2クラス
さいたま市立白幡中学校	2クラス
さいたま市立本太中学校	2クラス
さいたま市立原山中学校	1クラス

さいたま市立三橋中学校	1クラス
さいたま市立春里中学校	1クラス
さいたま市立西原中学校	1クラス
さいたま市立田島中学校	1クラス
さいたま市立美園中学校	1クラス
さいたま市立十二月田中学校	1クラス
秩父市立秩父第一中学校	1クラス
さいたま市立宮原中学校	1クラス
川口市立戸塚西中学校	6クラス
川口市立上青木中学校	4クラス
戸田市立戸田東中学校	3クラス
川口市立安行東中学校	3クラス
加須市立大根根中学校	3クラス
さいたま市立岸根中学校	2クラス
久喜市立栗橋西中学校	2クラス
熊谷市立富士見中学校	2クラス
杉戸町立杉戸南中学校	2クラス
川口市立八幡木中学校	2クラス
加須市立加須東中学校	1クラス
久喜市立鷲宮西中学校	1クラス
春日部市立豊春中学校	1クラス
春日部市立豊野中学校	1クラス
川口市立鳩ヶ谷中学校	1クラス
秩父市立尾田蔭中学校	1クラス
志木市立志木中学校	6クラス
鴻巣市立鴻巣中学校	5クラス
新座市立新座中学校	5クラス
川口市立青木中学校	5クラス
宮代町立百間中学校	4クラス
戸田市立美笹中学校	4クラス
八潮市立八幡中学校	4クラス
狭山市立山王中学校	3クラス
上尾市立太平中学校	3クラス
杉戸町立杉戸中学校	3クラス
川口市立在家中学校	3クラス
川口市立榛松中学校	3クラス
蓮田市立蓮田中学校	3クラス
和光市立第三中学校	3クラス
熊谷市立別府中学校	2クラス
戸田市立笹目中学校	2クラス

三郷市立前川中学校	2クラス
深谷市立上柴中学校	2クラス
深谷市立藤沢中学校	2クラス
神川町立神川中学校	2クラス
川口市立安行中学校	2クラス
川口市立岸川中学校	2クラス
川口市立戸塚中学校	2クラス
川口市立領家中学校	2クラス
入間市立金子中学校	2クラス
和光市立第二中学校	2クラス
越谷市立大袋中学校	1クラス
吉川市立中央中学校	1クラス
久喜市立久喜中学校	1クラス
久喜市立鷲宮中学校	1クラス
熊谷市立大里中学校	1クラス
戸田市立戸田中学校	1クラス
行田市立埼玉中学校	1クラス
行田市立長野中学校	1クラス
春日部市立東中学校	1クラス
所沢市立安松中学校	1クラス
所沢市立北野中学校	1クラス
上尾市立原市中学校	1クラス
上尾市立上尾中学校	1クラス
上尾市立大石中学校	1クラス
新座市立第三中学校	1クラス
新座市立第二中学校	1クラス
新座市立第六中学校	1クラス
深谷市立深谷中学校	1クラス
川口市立芝西中学校	1クラス
川口市立芝東中学校	1クラス
蓮田市立平野中学校	1クラス
和光市立大和中学校	1クラス
幸手市立西中学校	5クラス
川口市立東中学校	5クラス
川口市立芝中学校	4クラス
羽生市立東中学校	3クラス
三郷市立北中学校	3クラス
川口市立北中学校	3クラス
北本市立東中学校	3クラス
越谷市立西中学校	2クラス

●千葉県

佐倉市立根郷中学校	3クラス
流山市立おおぐろの森中学校	2クラス
市原市立ちはら台西中学校	5クラス
千葉市立さつきが丘中学校	3クラス
我孫子市立我孫子中学校	7クラス
四街道市立千代田中学校	4クラス
我孫子市立湖北台中学校	3クラス
市原市立国分寺台中学校	3クラス
松戸市立新松戸南中学校	3クラス
松戸市立和名ヶ谷中学校	2クラス
野田市立木間ヶ瀬中学校	2クラス
四街道市立四街道中学校	1クラス



越谷市立北中学校	2クラス
吉川市立南中学校	2クラス
川口市立西中学校	2クラス
川口市立南中学校	2クラス
三郷市立栄中学校	1クラス
所沢市立東中学校	1クラス
上尾市立西中学校	1クラス
上尾市立南中学校	1クラス
深谷市立南中学校	1クラス
大宮開成中学校	5クラス
本庄第一中学校	2クラス

大網白里市立増穂中学校	1クラス
習志野市立第五中学校	6クラス
習志野市立第二中学校	5クラス
習志野市立第六中学校	5クラス
我孫子市立湖北中学校	4クラス
市原市立辰巳台中学校	4クラス
鎌ヶ谷市立第二中学校	3クラス
習志野市立第三中学校	3クラス
習志野市立第七中学校	3クラス
千葉市立千草台中学校	3クラス
流山市立東深井中学校	3クラス
浦安市立日の出中学校	2クラス
鎌ヶ谷市立第四中学校	2クラス
市原市立姉崎東中学校	2クラス
松戸市立古ヶ崎中学校	2クラス
白井市立七次台中学校	2クラス
富里市立富里南中学校	2クラス
木更津市立岩根中学校	2クラス
流山市立常盤松中学校	2クラス
流山市立西初石中学校	2クラス
印西市立西の原中学校	1クラス
横芝光町立横芝中学校	1クラス
鎌ヶ谷市立第五中学校	1クラス
市川市立下貝塚中学校	1クラス
松戸市立栗ヶ沢中学校	1クラス
松戸市立根本内中学校	1クラス
流山市立南流山中学校	1クラス
印西市立木刈中学校	8クラス
松戸市立第一中学校	7クラス
松戸市立六実中学校	7クラス
野田市立第一中学校	7クラス
松戸市立第六中学校	6クラス
浦安市立富岡中学校	5クラス
白井市立南山中学校	5クラス
流山市立北部中学校	5クラス
佐倉市立佐倉中学校	4クラス
松戸市立小金中学校	4クラス
柏市立柏第三中学校	4クラス
野田市立岩名中学校	4クラス
野田市立北部中学校	4クラス

市原市立姉崎中学校	3クラス
千葉市立草野中学校	3クラス
柏市立柏第四中学校	3クラス
富里市立富里中学校	3クラス
印西市立印西中学校	2クラス
佐倉市立井野中学校	2クラス
佐倉市立南部中学校	2クラス
市原市立双葉中学校	2クラス
松戸市立旭町中学校	2クラス
柏市立柏第五中学校	2クラス
白井市立桜台中学校	2クラス
野田市立第二中学校	2クラス
野田市立南部中学校	2クラス
野田市立二川中学校	2クラス
流山市立東部中学校	2クラス
山武市立山武中学校	1クラス
市川市立第二中学校	1クラス
松戸市立第五中学校	1クラス
松戸市立第二中学校	1クラス
千葉市立白井中学校	1クラス
長柄町立長柄中学校	1クラス
柏市立柏第二中学校	1クラス
柏市立豊四季中学校	1クラス
野田市立福田中学校	1クラス
東金市立東中学校	4クラス
柏市立松葉中学校	3クラス
柏市立風早中学校	3クラス
柏市立富勢中学校	2クラス
東金市立北中学校	1クラス
柏市立手賀中学校	1クラス
栄町立栄中学校	4クラス
柏市立柏中学校	2クラス
●東京都	
東京都立戸山高等学校	2クラス
東京都立青山高等学校	2クラス
府中市立府中第二中学校	2クラス
町田市立町田第三中学校	1クラス
板橋区立板橋第二中学校	1クラス
武蔵野市立第一中学校	4クラス

川崎市立川中島中学校	5クラス
川崎市立西中原中学校	4クラス
川崎市立中野島中学校	4クラス
川崎市立南生田中学校	4クラス
川崎市立宮前平中学校	3クラス
川崎市立東高津中学校	3クラス
川崎市立立河原中学校	3クラス
川崎市立富士見中学校	3クラス
小田原市立城南中学校	2クラス
横浜市立小山台中学校	1クラス
川崎市立西生田中学校	1クラス
川崎市立宮崎中学校	6クラス
川崎市立塚越中学校	6クラス
川崎市立井田中学校	5クラス
川崎市立白鳥中学校	5クラス
川崎市立野川中学校	5クラス
川崎市立稲田中学校	4クラス
川崎市立御幸中学校	4クラス
川崎市立臨港中学校	4クラス
大磯町立大磯中学校	4クラス
川崎市立柿生中学校	3クラス
川崎市立宮内中学校	3クラス
川崎市立生田中学校	3クラス



●神奈川県

川崎市立田島中学校	3クラス
川崎市立渡田中学校	3クラス
川崎市立東橋中学校	3クラス
川崎市立麻生中学校	3クラス
川崎市立金程中学校	2クラス
川崎市立向丘中学校	2クラス
川崎市立今井中学校	2クラス
川崎市立菅生中学校	2クラス
川崎市立南菅中学校	2クラス
川崎市立平間中学校	2クラス
川崎市立有馬中学校	2クラス
横浜市立中田中学校	1クラス
横浜市立田奈中学校	1クラス
川崎市立京町中学校	1クラス
川崎市立玉川中学校	1クラス
川崎市立川崎中学校	1クラス
川崎市立菅中学校	3クラス
川崎市立橘中学校	1クラス
川崎市立平中学校	1クラス
●新潟県	
長岡市立宮内中学校	1クラス
新潟市立新潟柳都中学校	1クラス
新潟市立鳥屋野中学校	2クラス



金沢市立森本中学校	4クラス
●山梨県	
山梨大学教育学部付属中学校	6クラス
富士吉田市立下吉田中学校	4クラス
富士吉田市立吉田中学校	5クラス
富士吉田市立明見中学校	2クラス
甲斐市立竜王北中学校	3クラス
組合立河口湖南中学校	2クラス
甲斐市立双葉中学校	4クラス
甲府市立北東中学校	3クラス
北杜市立高根中学校	3クラス
甲府市立南西中学校	2クラス
甲府市立富竹中学校	2クラス
笛吹市立一宮中学校	2クラス
笛吹市立石和中学校	2クラス
甲府市立城南中学校	1クラス
北杜市立白州中学校	1クラス
甲府市立東中学校	4クラス
甲府市立北中学校	1クラス
●長野県	
長野市立篠ノ井西中学校	1クラス
長野市立篠ノ井東中学校	1クラス
南箕輪村立南箕輪中学校	2クラス
長野清泉女学院中学校	1クラス
長野市立三陽中学校	2クラス
長野市立裾花中学校	2クラス
長野市立東部中学校	5クラス
組合立鉢盛中学校	2クラス
上田市長和町中学校組合立依田窪南部中学校	1クラス
信州大学教育学部附属松本中学校	3クラス
千曲市立戸倉上山田中学校	1クラス
安曇野市立豊科北中学校	4クラス
軽井沢町立軽井沢中学校	4クラス
安曇野市立豊科南中学校	2クラス
岡谷市立岡谷東部中学校	2クラス
下諏訪町立下諏訪中学校	2クラス
阿南町立阿南第一中学校	1クラス
阿南町立阿南第二中学校	1クラス

岡谷市立岡谷西部中学校	1クラス	坂城町立坂城中学校	2クラス
御代田町立御代田中学校	1クラス	小諸市立菅原中学校	2クラス
佐久穂町立佐久穂中学校	1クラス	松本市立高綱中学校	2クラス
山ノ内町立山ノ内中学校	1クラス	上田市立第三中学校	2クラス
南木曽町立南木曽中学校	1クラス	須坂市立常盤中学校	2クラス
飯田市立緑ヶ丘中学校	9クラス	池田町立高瀬中学校	2クラス
小諸市立小諸東中学校	4クラス	中野市立高社中学校	2クラス
松本市立女鳥羽中学校	3クラス	長野市立北部中学校	2クラス
安曇野市立三郷中学校	2クラス	長野市立柳町中学校	2クラス
安曇野市立堀金中学校	2クラス	白馬村立白馬中学校	1クラス
伊那市立西箕輪中学校	2クラス	飯田市立竜峡中学校	2クラス
千曲市立更埴西中学校	2クラス	飯島町立飯島中学校	2クラス
長野市立川中島中学校	2クラス	筑北村立聖南中学校	2クラス
飯田市立旭ヶ丘中学校	2クラス	伊那市立長谷中学校	1クラス
松本市立筑摩野中学校	1クラス	伊那市立東部中学校	1クラス
上田市立丸子北中学校	1クラス	塩尻市立塩尻中学校	1クラス
諏訪市立諏訪南中学校	1クラス	下條村立下條中学校	1クラス
中野市立中野平中学校	1クラス	小川村立小川中学校	1クラス
中野市立南宮中学校様	1クラス	小谷村立小谷中学校	1クラス
飯田市立飯田西中学校	1クラス	松本市立鎌田中学校	1クラス
飯田市立飯田東中学校	1クラス	松本市立松島中学校	1クラス
長野市立犀陵中学校	5クラス	松本市立清水中学校	1クラス
箕輪町立箕輪中学校	5クラス	松本市立波田中学校	1クラス
佐久市立浅間中学校	4クラス	上田市立丸子中学校	1クラス
松本市立梓川中学校	4クラス	上田市立第一中学校	1クラス
上田市立塩田中学校	4クラス	上田市立第六中学校	1クラス
大町市立大町中学校	4クラス	須坂市立相森中学校	1クラス
長野市立東北中学校	4クラス	千曲市立殖生中学校	1クラス
塩尻市立広陵中学校	3クラス	川上村立川上中学校	1クラス
茅野市立北部中学校	3クラス	大鹿村立大鹿中学校	1クラス
松川村立松川中学校	3クラス	中野市立豊田中学校	1クラス
松本市立山辺中学校	3クラス	長野市立戸隠中学校	1クラス
上田市立第五中学校	3クラス	長野市立若穂中学校	1クラス
上田市立第二中学校	3クラス	長野市立松代中学校	1クラス
須坂市立墨坂中学校	3クラス	長野市立豊野中学校	1クラス
千曲市立屋代中学校	3クラス	南牧村立南牧中学校	1クラス
東御市立東部中学校	3クラス	飯山市立城南中学校	1クラス
阿智村立阿智中学校	2クラス	飯田市立遠山中学校	1クラス
高森町立高森中学校	2クラス	飯田市立高陵中学校	1クラス
佐久市立望月中学校	2クラス	飯田市立竜東中学校	1クラス

●静岡県	
沼津市立第五中学校	1クラス
富士宮市立富士宮第四中学校	5クラス
富士宮市立富士宮第二中学校	4クラス
富士宮市立富士宮第三中学校	3クラス
沼津市立長井崎小中一貫学校	1クラス
富士宮市立富士根南中学校	7クラス
富士市立富士川第二中学校	2クラス
沼津市立戸田小中一貫学校	1クラス
静岡市立清水第二中学校	6クラス
富士市立吉原第二中学校	6クラス
富士市立吉原第一中学校	5クラス
富士宮市立大富士中学校	4クラス
富士市立吉原第三中学校	4クラス
静岡市立清水庵原中学校	2クラス
静岡市立清水第一中学校	2クラス
静岡市立清水第四中学校	2クラス
伊豆市立土肥小中一貫校	1クラス
静岡市立清水第五中学校	1クラス
静岡市立清水飯田中学校	1クラス



飯田市立鼎中学校	3クラス
佐久市立東中学校	2クラス
塩尻市立丘中学校	1クラス

島田市立島田第二中学校	1クラス
浜松市立北浜東部中学校	1クラス
焼津市立大井川中学校	6クラス
掛川市立桜が丘中学校	4クラス
静岡市立東豊田中学校	4クラス
富士市立吉原北中学校	4クラス
御殿場市立原里中学校	2クラス
富士宮市立芝川中学校	2クラス
富士宮市立北山中学校	2クラス
御殿場市立高根中学校	1クラス
静岡市立安倍川中学校	1クラス
富士市立田子浦中学校	1クラス
浜松市立横志中学校	6クラス
富士市立岩松中学校	6クラス
藤枝市立青島中学校	5クラス
浜松市立丸塚中学校	5クラス
浜松市立中郡中学校	5クラス
富士市立岳陽中学校	5クラス
沼津市立第五中学校	4クラス
沼津市立第三中学校	4クラス
浜松市立南陽中学校	4クラス
富士市立鷹岡中学校	4クラス
御殿場市立西中学校	3クラス
三島市立山田中学校	3クラス
沼津市立愛鷹中学校	3クラス
沼津市立門池中学校	3クラス
焼津市立大村中学校	3クラス
熱海市立熱海中学校	3クラス
函南町立函南中学校	3クラス
磐田市立向陽中学校	3クラス
三島市立錦田中学校	2クラス
小山町立小山中学校	2クラス
小山町立須走中学校	2クラス
沼津市立今沢中学校	2クラス
沼津市立片浜中学校	2クラス
袋井市立袋井中学校	2クラス
藤枝市立岡部中学校	2クラス
浜松市立中部中学校	2クラス
浜松市立龜玉中学校	2クラス
富士市立富士中学校	2クラス

沼津市立第二中学校	1クラス
沼津市立大岡中学校	1クラス
沼津市立大平中学校	1クラス
沼津市立第一中学校	1クラス
沼津市立第四中学校	1クラス
沼津市立浮島中学校	1クラス
裾野市立須山中学校	1クラス
静岡市立豊田中学校	1クラス
島田市立六合中学校	1クラス
磐田市立福田中学校	1クラス
富士市立須津中学校	1クラス
掛川市立東中学校	7クラス
函南町立東中学校	5クラス
伊東市立南中学校	4クラス
沼津市立原中学校	4クラス
清水町立南中学校	3クラス
伊東市立北中学校	2クラス
焼津市立港中学校	2クラス
●愛知県	
豊田市立美里中学校	1クラス
●大阪府	
関西福祉科学大学高等学校	1クラス
大商学園高等学校	13クラス
●兵庫県	
朝来市立山口小学校	1クラス
朝来市立中川小学校	1クラス
●鳥取県	
倉吉市立西中学校	3クラス



北野の光

斎行された祭典・行事

《四月・六月》

江戸時代の賣茶翁が茶祖 賣茶本流献茶式を斎行

煎茶の賣茶本流の献茶式が、四月十三日午前十時から御本殿で斎行された。

賣茶本流は、賣茶翁の名で知られた江戸時代中期の高遊外を茶祖とする煎茶道で、当宮では昭和二十七年以来、毎年献茶式が行われている。

社中の方々が参列される中、十世家元の渡邊琢祥宗匠が煎茶を点てられ、神職の手で御神前に献上された。式後、明月舎に茶席が設けられた。



御神前に無実の喜びを奉告 明祭（中祭）を斎行

菅公の冤罪が晴れた日に当たる四月二十日午前十時、御本殿で明祭（中祭）を斎行し、無実の喜びを御神前に奉告した。

従二位右大臣の位にあつた菅公は、昌泰四年（九〇二）正月、左大臣藤原時平の讒言によつて無実の罪を着せられ、九州・大宰府に^{ださいのふち}大宰権帥として配流され、二年後の延喜三年（九〇三）二月二十五日、失意のうちに薨去された。しかし、二十年後の延長元年（九二二）四月二十日、冤罪は晴れて右大臣に復され、位階も一段階上げ正二位に昇進、左降の文書は直ちに焼却された。そのため、この日を菅公の冤罪が晴れた日として明祭を斎行している。なお朝廷はその後、正歴四年（九九三）六月、菅公を正一位に叙し、さらに同年閏十月、人臣としては最高位の太政大臣の官職を追贈している。

賑々しく摂社文子天満宮例祭 神輿巡行に沿道沸く

当宮創建より早く菅公を祀つた末社文子天満宮の例祭文子天満宮祭を、四月十七日から二十日まで四日間にあたり斎行した。神幸・還幸の両祭とも雨の心配のない天候となり、賑やかな神輿の巡行が沿道を沸かせた。

菅公薨去後の天慶五年（九四二）、西ノ京に住んでいた多治比文子という童女が「右近の馬場（現在の本社鎮座地）に菅原大神を祀れ」との御神託を受けた。しかし、文子は家貧しく、それに応えることが出来ず、自宅の傍らに小さな祠を建てて奉祀した。その後、文子は同じ御神託を受けた近江国比良の神主の息子らと力を合わせ当宮の創建となった。

菅公を祀つた文子宅は霊地となり、文子天満宮と称して北野の神人によつて護られてきたが、曲折を経てその後、上の下立売通天神筋上ル北町



に遷され、さらに明治初めに当宮内の現在地に遷された。北町の旧地は御旅所となり、文子天満宮祭は、御神霊が御旅所に渡つてお祀りされるもので、地域の人たちから「文子さん」「文子まつり」と呼ばれて親しまれている。

神幸祭の祭典は十七日午後二時から同天満宮の御神前で西之京瑞饌神輿保存会（荒田匡会長）の会員らの参列の下で斎行され、斎主の祝詞奏上の後、御神霊が遷された神輿が、会員らの供奉によつて御旅所に渡御した。還幸祭は二十日午後一時から御旅所において出御祭を斎行し、神輿が本社まで巡行し、御神霊が遷された文子天満宮前で着御祭の祭典を斎行し、四日間にわたる例祭を終えた。



摂社地主神社例祭

当宮鎮座より以前に北野の地の地主神として鎮座の摂社地主神社の例祭を、四月十六日午前十時から斎行した。

平安時代の歴史書『続日本後紀』の承和三年（八三六）の二月の条に「遣唐使の為に天神地祇を北野に祀る」とあり、遣唐使の無事をここで祈ったとされている。鎌倉時代前期には三基の神輿があった、との記録もある。



御神前に新酒を供えて献酒祭斎行 酒造りの安全と業界の繁栄を祈願

御神前に酒造会社などから奉納された新酒を供え、五月十三日午前十一時から御本殿で献酒祭を斎行した。室町時代、当宮神人に麴造りの特権（北野麴座）が与えられたことから、酒造関係者の当宮への崇敬は殊に篤い。今年も多く酒造会社などから奉納された新酒を御神前に供え、酒造りの安全と業界の繁栄・関係者の無病息災を祈願した。御献酒頂いた酒造会社は次の通り。（順不同）

佐々木酒造・松井酒造・宝酒造・増田徳兵衛商店・豊澤本店・黄桜・東山酒造・齊藤酒造・北川本家・山本本家・月桂冠・京姫酒造・平和酒造合資会社・藤岡酒造・キンシ正宗・玉乃光酒造・都鶴酒造・招徳酒造・城陽酒造・奈良豊澤酒造・丹山酒造・関酒造・大石酒造・長老・羽田酒造・浪乃音酒造・平井商店・古川酒造・太田酒造・北島酒造・暁酒造・松瀬酒造・喜多酒造・矢尾酒造・愛知酒造・藤居本家・吉田酒造・沢の鶴・白鶴酒造・本野田酒造・日本盛・北山酒造・白鷹・松竹梅酒造・辰馬本家酒造・國産酒造・万代大澤醸造・大澤本家酒造・大関・今津酒造・櫻正宗・菊正宗酒造・小山本家酒造・灘濱福鶴蔵・剣菱酒造・福徳長酒類・木下酒造・三宅本店・林酒造



早朝の祭典「雷除大祭」斎行 摂社火之御子社の例祭 雷除・豊作を祈願

早朝の祭典として知られる摂社火之御子社の例祭「雷除大祭」を、六月一日午前五時から斎行した。

三光門前に鎮座の火雷神を祀る火之御子社は、当宮の創建以前より祀られていた古社。「北野の雷公」と呼ばれて、雷除・火難除・豊作の守護神として、朝廷の篤い信仰を受けた。火雷神には、雨を呼ぶための雨乞いや豊作の祈願がよく行われており、かの左大臣藤原時平の父親で太政大臣だった藤原基経が、五穀豊穡を祈って御祭を斎行した記録も遺されている。

こうした信仰は現代でも受け継がれており、落雷を避けようとする電気工事関係者や釣り人・ゴルフアーなどの参拝が多い。

早朝の祭典は、開門前、古式に則り火打石で浄火を点じて斎行し、雷除と五穀豊穡を祈願した。お祓いした御札や御守りは、開門と同時に参拝者に授与され、授与所は終日賑わった。



特殊神饌を供え 季節の変わり目の神事・青柏祭を斎行

北野四季祭の一つである青柏祭を、六月十日午前十時から御本殿で斎行した。当宮では、霞祭（立春）、青柏祭（初夏）、御手洗祭（立秋）、赤柏祭（立冬）を「北野四季祭」と称し、季節の変わり目の神事として、古くから祓えと浄めの信仰に基づく祭典として斎行してきた。

青柏祭は「往古より祭式あり、新芽の葉を神供に穀を奉る夏季報賽の祭り」（当宮史料）で、炊いた米を柏の葉で包み、クルミと梅水を加えた特殊神饌を供え、御神恩に感謝し、氏子崇敬者の無病息災を祈った。



宮渡祭を斎行 天門・北野の地に鎮座の日



北野の地に当宮が鎮座した日に当たる六月九日午前十時から、御本殿において宮渡祭（中祭式）を厳かに斎行した。

天慶五年（九四二）七月、西ノ京に住む多治比文子という童女に、また五年後の天曆元年（九四七）、近江比良宮の神主神良種の子、太郎丸という少年にそれぞれ御託宣があり、文子・良種・北野朝日寺の僧侶最珍らが協力して、平安京の北西（乾）の現在地に天満宮を創建した日が、同年六月九日であり、この日に祭典を斎行している。

竈社例祭

東門内の北側に祀られている台所の守護神、末社竈社の例祭を六月十七日午前十時から斎行した。

御神前に供える神饌を調理する台所の守護神であった庭津彦神・庭津姫神と、火を司る火産靈神を竈大神としてお祀りしている。明治十四年の同日に末社に列せられたことから、この日に例祭を斎行しており、神職が氏子崇敬者の家内安全と火の用心を祈った。

なお、同社の社殿床下には、昔から神饌の調理に使われてきた大釜が納められている。



二條流の献茶式斎行

煎茶道の二條流献茶式を六月二十二日午前九時から御本殿で斎行した。

二條流は、明治元年、水島雅莊氏によって神戸で創設された煎茶道で、毎年当宮御神前で献茶式を斎行されている。社中の皆さんが参列される中、七世二條雅瑛家元のご奉仕によってお点前が行われ、御神前に煎茶が供えられた。式典後、明月舎に茶席が設けられ、社中の方々が一服を楽しまれた。



正月の縁起物「大福梅」の摘み取り 例年通り梅の実二トンを収穫

正月の縁起物「大福梅」に調製される梅の実の摘み取りが五月二十三日から二週間がかりで行われ、例年通り約二トンを収穫した。

こよなく梅を愛された御祭神菅公にちなんで境内には約五十種・千五百本の梅の木があり、京都市内では屈指の梅の名所となっている。この梅の木から採取した梅は、招福息災の祈りを込めた「大福梅」として調製され、元旦の祝膳に白湯に入れて頂く縁起物として参拝者の人気が高い。「大福梅」は、天曆五年（九五二）、疫病が流行の際、時の村上天皇も罹患されたが、この梅の茶を服されて平癒されたとの故事にちなんでいる。

初日は、晴天の下、巫女六人が境内各所で青々とした梅の実を一つずつ丁寧に摘み取った。翌日からは、神職や崇敬者も加わっての作業となった。三十一日には、当宮のボーイスカウト（京都第八十五団）を始め八坂神社・下鴨神社で活動しているボーイスカウト・ガールスカウトの小中学生約六十人も加わっての賑やかな摘み取り風景となった。摘み取った梅の実は、直ちに樽で塩漬けにされた。



「大福梅」の土用干し 例年より三週間早く

「大福梅」の土用干しが六月三十日から始まった。今年の梅雨明けが観測史上最も早い同二十七日に発表されたため、夏の風物詩土用干しも例年より三週間程度早まった。

この日の京都は朝から強い日差しが照りつけ、最高気温三六・八度の猛暑日。塩漬けにされた梅の実が樽から出され、神職・巫女ら約十人が筵を敷いた台の上に重ならないよう丁寧に広げていった。境内に甘酸っぱい梅の香りが漂い、参拝者に夏の到来を告げていた。この土用干しは、一カ月がかりで行われ、干し上がった梅の実再び樽で塩漬けにされ、十一月に裏白といっしょに奉書に包み、十二月十三日の事始めの日から「大福梅」として参拝者に授与される。



夏越の二神事で酷暑の無病息災を祈願

夏越天神 御誕辰祭、御本殿で厳かに

楼門では「大茅の輪くぐり」

御祭神・菅原道真公の御誕生日に当たる六月二十五日、御本殿で午前九時から御誕辰祭を厳かに斎行した。

菅公は、承和十二年（八四五）の六月二十五日、菅原是善公（文章博士）の第三子として京都で誕生され、延喜三年（九〇三）の二月二十五日、配流先の大宰府で薨去された。この御神縁に因んで当宮では毎月二十五日を「天神さま」の御縁日として御本殿で祭典を斎行し、境内一円に多くの露店が並ぶ天神市が開かれ、参拝者で賑わう。とりわけ誕生日に当たる六月の御縁日は「夏越天神」と呼ばれ、酷暑を控えての厄除けと夏場の無病息災を祈願する信仰が根付いている。

御誕辰祭は、御本殿に境内で採れたもぎたての梅の実などが供えられ、宮司以下神職によって厳かに斎行された。楼門での「大茅の輪くぐり」は、御誕辰祭当日における恒例の神事。大茅の輪は、南丹市・美山などで刈り取った茅を青竹に巻き付けて作った神職の手作りで、直径五メートルもある京都では最大級の大きさ。参拝者が次々くぐり抜け、夏場の健康と無病息災を祈った。御本殿前の中庭にも身の丈



ほどの小型の茅の輪が取り付けられ、こちらもくぐり抜ける参拝者で賑わった。この日の京都は曇り空だったが、最高気温は平年を四・二度も上回る三十三・二度と真夏日の暑さ。「天神さんで茅の輪をくぐって健康を頂くのが長年の習わし」と、手を合わせながら茅の輪をくぐるお年寄りも見られた。



夏越の大祓 約一千人が参列

夏場の健康を祈り半年間の穢れを祓う

大福梅の「土用干し」の中庭で

夏越の大祓式を、六月三十日午後四時から御本殿前の中庭で斎行し、梅雨明けの猛暑の中、約一千人の氏子崇敬者が参列した。大祓は、六月と十二月の晦日に宮中を始めとして、全国の神社で斎行される。日々の生活の中で無意識に身についた罪や穢れを紙の人形に託して祓い清める古くからの神事。

当日は、宮司を始め神職や参列者が大祓詞を手に奏上し、切幣や人形にて邪気を祓った。この後、神職・崇敬者・参拝者は、御本殿前中庭に設えられている青々とした茅の輪を、古式通り左に右に三度廻つてくぐり抜け、半年間に身についた罪・穢れを祓い清め、これから訪れる夏場の健康と無



病息災とを祈った。

また、氏子崇敬者らが納めた人形・車形代なども丁寧に唐櫃に入れられ、これを担いだ神職二人を先頭に、宮司以下神職がまづは茅の輪をくぐった。その後、案内の神職に続き参列した参拝者が、次々に茅の輪をくぐって身を清めた。

今年は、観測史上最速で六月二十七日に梅雨明けしており、この日は猛暑日。中庭ではすでに「大福梅」の土用干しが始まっており、ある参列者は「夏越の大祓で土用干しの風景を見るのは初めて」と驚きの表情だった。

祭事暦 (7月1日～10月5日)

《7月》

1日	午前10時	月首祭
12日	午前10時	當日祭
15日	午前10時	月次祭
	午前10時半	天満宮講社奉賛奉告祭
25日	午前9時	月次祭
	午前11時	新茶奉獻奉告祭
	午後4時半	夕神饌

《8月》

【赤字表記：北野祭礼】

1日	午前10時	月首祭
3日	午前11時	学業大祭
《北野御手水神事》		
6日	午後4時	御手洗祭前夕饌
7日	午前10時	御手洗祭
15日	午前10時	月次祭
25日	午前9時	月次祭
	午後4時半	夕神饌
31日	午後3時	奉納図画展授賞式

《9月》

1日	午前10時	月首祭
3日		参籠
4日	午前10時	例祭・北野御霊会（大祭）
15日	午前10時	月次祭
23日	午前10時	秋季皇霊祭遥拝式
24日	午前9時	神輿飾り
25日	午前9時	月次祭
	午後4時	夕神饌
26日	午後4時半	稚児奉仕者奉告祭
30日		参籠

《10月》

《北野祭神幸祭》		
1日	午前9時	神幸祭 出御祭（本社）
2日	午前10時	献茶祭（御旅所）表千家宗匠奉仕
3日	午後3時	甲御供奉饌（御旅所）七保会奉仕
《北野祭還幸祭》		
4日	午前10時	還幸祭 出御祭（御旅所）
5日	午後3時半	后宴祭・稚児奉仕終了奉告祭（本社）

月釜献茶 (7月1日～9月30日)

《7月》

1日	献茶祭保存会	官和会	(明月舎)
13日	梅文会	休会	(松向軒)
15日	献茶祭保存会	濱宗貴	(明月舎)
	松向軒保存会	休会	(松向軒)
27日	紫芳会	布施社中	(松向軒)

《8月》

1日	献茶祭保存会	半床庵社中	(明月舎)
10日	梅文会	休会	(松向軒)
15日	献茶祭保存会	休会	(明月舎)
	松向軒保存会	休会	(松向軒)
24日	紫芳会	休会	(松向軒)

《9月》

1日	献茶祭保存会	多門宗正	(明月舎)
14日	梅文会	扶桑会	(松向軒)
15日	献茶祭保存会	堀内社中	(明月舎)
	松向軒保存会	小澤宗成	(松向軒)
28日	紫芳会	紫芳会	(松向軒)



新茶奉獻奉告祭

七月二十五日

京都近隣の宇治・宇治田原・木幡・城陽・佐山・京田辺・醍醐・伏見・向島・綴喜・山城・南山城・信楽など、銘茶の各生産地で摘まれ奉納された新茶を御神前に供え、茶業の安全と発展を祈願する。

当宮と茶業との御縁は、天正十五年（二五八七）当宮境内で豊臣秀吉公により開かれた北野大茶湯の由縁に始まり、以来当宮は、茶業家からの信仰が殊に篤い。



奉納図画展

八月十九日～三十一日

八月三十一日

奉納図画展授賞式

入賞者参列のもと、御本殿にて祭典を斎行し、優秀作品の授賞式を執り行う。

京丹後大宮賣神社で御田植祭齋行 北野祭保存会・立命館大学ボランティアガイドサークルも参加

快晴に恵まれた五月三日、京丹後市周枳御鎮座の大宮賣神社（島谷康夫宮司）にて、御田植祭が齋行された。大宮賣神社と当宮とは御神縁も深く、例年北野神輿会・北野祭保存会（井上経和会長）が祭礼用のお米作りを行っており、今年も御本殿に特設された齋田に稲穂を挿し、御神前に豊穰の祈りを捧げた。

北野神輿会・北野祭保存会は、来たる千二百二十五年半萬燈祭に向けて、応仁の乱で途絶えた「北野祭」の再興を目指し、様々な取り組みを行っている崇敬会であり、その一環として、かつて大嘗祭の主基の地であった周枳の方々のご協力の下、田植えや稲刈りの奉仕を行い、収穫された米を御神前にお供えた上で、秋に齋行される北野祭神輿渡御に際して、奉仕者に振舞う宮弁当に使用している。

今年は田植えは行わず、御本殿での祭典と交流会のみの開催となったが、当宮でもガイドを行っている立命館大学ボランティアガイドサークルより三名が参加し、年々奉仕の輪が広がりをを見せている。

祭典が終了後、井上会長以下参加者は近くの施設に場所を移し、氏子の方々との交流会が催された。互いの神社の神輿や祭りの違い等、様々な感想や意見交換が行われ、交流を深めるとともに多くの学びを得ると共に、いよいよ間近となった北野祭再興に向け気持ちを昂めた。

大宮賣神社は、御祭神大宮賣神をお祀りする神社で、歴史を繙くと弥生時代にまで遡るといわれている由緒ある御社である。大嘗祭における主基国に選定された地であったことから周枳社（主基社）とも呼ばれている。当宮一帯も境内西側（御土居沿い）を流れる紙屋川は古くは荒見川と呼ばれ、大嘗祭に先立つ祓の儀式（荒見川祓）が行われ、かつて大嘗宮が設けられた地でもあり、境内には御祭神を同じくする周枳社が祀られており、大宮賣神社と当宮には大嘗祭を通して深い御神縁がある。



氏子講社だより 常任理事会開く

氏子講社（宮階有二講社長）の常任理事会が六月九日、風月殿にて開催され、理事六人と宮司・権宮司が出席した。

冒頭、宮司が「コロナ禍によって、すべてが停滞する事態となっていたが、皆さま方のご尽力で前進することができ、改めて御礼と感謝を申し上げたい。先般は、足利公御寄進に由来する神輿の軀体がお目見えした。来年の暮れには完成し、令和九年の北野祭では平安時代から続く北野祭の伝統が復興する運びとなり喜びに堪えない。本日は、今秋の『北野祭』の神幸祭・還幸祭の神輿巡行など諸案件についてご審議頂きたい」と挨拶した。

次いで宮階講社社長が「菅公御神忌千二百二十五年半萬燈祭まで、もう二年を切った。本日は、その件の説明もある。各議案の慎重審議をお願いしたい」と述べられた。

この後、議事に入り、令和六年度の収支決算や令和七年度の収支予算案を承認した。さらに今秋の北野祭の日程や十月一日の神幸祭から四日の還幸祭に至る諸行事や巡行の行列奉仕の講・学区などを確認した。

さらに、令和九年齋行の御神忌千二百二十五年半萬燈祭の主要事業である「北野祭復興」に向けての取り組みについて、進捗状況などが事務局から報告され、権宮司からも補足説明が行われた。



北野天神太鼓会 大阪・関西万博で力強く演奏 和太鼓の魅力をもっと披露



当宮の神社青年会である神若会北野天神太鼓会が七月三日、大阪・関西万博内EXPOアリーナ「Matsuri」にて開催された「一〇〇〇人太鼓」響け魂の鼓動に参加、力強いパフォーマンスを披露した。

同イベントは、堺を拠点に活動する和太鼓団体「堺太鼓」が中心となり、「国籍・性別・年齢・障害の有無は関係なく、日本の伝統文化である和太鼓の魅力を世界に向けて発信する」という思いを胸にみんな太鼓を打つ！という趣旨のもと行われ、全国から熱い思いをもった太鼓演奏者約一〇〇〇人が集結し、厳

しい日差しが降り注ぐ中、大勢の観衆に向け力強く演奏し、和太鼓の魅力を伝えた。当日は午後一時に開幕、神楽の余興やゲストトークなどが行われ、午後三時と七時の二回にわたり一〇〇〇人太鼓の演奏、また各団体が舞台上にてそれぞれ一曲演奏を披露し、北野天神太鼓会も「翔龍」を演奏、盛大な拍手に包まれた。



大阪・関西万博で脱炭素で意見交換 神道の精神から地球環境を考える

現在当宮では、半萬燈祭に向けた事業の一環として環境省が進めている脱炭素選考地域への参画を行っており、境内のLED化などを進めている。

そうした経緯から、五月二十一日、現在開催されている大阪・関西万博において行われたテーマウィーク『実践者から「地方創生×脱炭素」の地域づくりを学べる蔵出しトーク 第2部 地域に合わせたまちづくりを！多様性に富んだ脱炭素の「カタチ」』に当宮禰宜が登壇し、環境省・京都市の行政や現在参画されている企業の有識者の方々と、カーボンニュートラルの達成を目指す脱炭素先行地域をはじめとする先進的な取組について、国、地方公共団体、企業等からの講演やパネルディスカッションを通じて、未来の脱炭素型の地域づくりについて双方の意見交換会を行った。

日本人は、縄文時代より自然と調和し、自然と共生し、自然に対して畏怖の念を持ち続けてきた民族。森羅万象全てに神が宿るという思想が、現代でも神道という形で日本人の精神に深く結びついている。神社の境内には鎮守の杜が広がり、重要なコミュニケーションの場となっているなど説明し、SDGsや脱炭素などにおける持続可能な発展を遂げるうえで神道・神社が重要なエッセンスを持つ場所であるとの意見発表を行った。



衣笠地区を再び”芸術の都”に

立命館大学の構想に当宮や仁和寺も賛同
紅梅殿船出の庭で新たなプロジェクトが始動



かつて錚々たる日本画家らが居住し、制作に励んだ衣笠地区を二十一世紀の今、新たな芸術村として再興しようという、学校法人立命館による構想の始動式典が四月二十一日、取り組みに賛同する当宮や仁和寺などの関係者が列席し、紅梅殿船出の庭で行われた。

「KINUGASA Redesign Project」と銘打たれた取り組みは、立命館大学の衣笠キャンパスのある衣笠地区一帯に、かつて土田麦僊・小野竹喬・堂本印象といった多くの名高い日本画家が居住し、「衣笠絵描き村」の呼称がつくほどの芸術の香り高い一帯だったことに着想を得て、大学で来春、デザイン・アート学部を新設するのに伴い、当宮や仁和寺を始め周辺の社寺や美術館などと手を携えて、衣笠地域をより幅の広い「芸術の都」として再興していこうとの想いで始動する地域連携型の新たなプロジェクトである。

式典では、仲谷善雄立命館総長が「社寺を始め地域社会と手を携えて、衣笠地区を『アートを軸とした文化エリア』として世界に発信していくことを宣言する」と挨拶。担当者から、この構想の説明が行われ、総本山仁和寺の大林實温執行長が「仁和寺は、宇多天皇が出家されてできた寺。宗教活動だけでなく様々な文化人が集う文化サロンだった」とし、また当宮の神職も「平安文化の礎は、宇多天皇と御祭神の菅公によって築かれた。文道の神、諸道の神として信仰を集めている当宮や、仁和寺とともにプロジェクトに賛同し、文化発信につとめたい」と挨拶した。

この後、ダウン症の天才書家として知られる金澤翔子さんが、大きな筆を振るい「飛翔」の字を書き、この日の始動式典を盛り上げた。

立命館では、今年から毎年六月の第一日曜日を「アートの日」とし、衣笠全域を舞台にしてアートの発信・交流に努めるといふ。



立命館大学ボランティアガイド研修会を実施 北野天満宮でのガイドに向け、当宮神職が講義を行う



立命館大学神社仏閣ボランティアガイドの研修会を六月七、八日と十四日の三日間にわたって開催、当宮神職が北野天満宮の歴史等について講義を行い、参加した学生は真剣な面持ちで勉強し、知識を深めた。

立命館大学神社仏閣ボランティアガイドは、立命館大学の学生によって構成され、衣笠キャンパスに近い当宮や仁和寺で主に参拝者や観光客に向けたガイドを行っている。ガイドができるのは、それぞ

れの社寺で開催される研修会を修了した者のみとなっており、今回の研修会は、入学式を経て新たに入会した学生を対象にしたもの。当宮神職により、基本となる歴史や信仰、また通常お参りするだけでは知る機会のない事柄など、参拝者をガイドするにあたって必要となる知識を授け、学生たちは懸命に吸収していた。また、講義の終わりには国宝の御本殿に昇殿し、正式参拝を行った後、御本殿についても説明を受け、普段は見られない殿内を興味深く観察していた。

現在、当宮においては毎月二十五日の御縁日にボランティアガイドが実施されている。学生によるガイドは神職とはまた違った雰囲気の中で行われ、多くの参拝者からも好評を得ている。当宮ご参拝の折、ガイドが実施されていれば、ぜひ一度ご体験いただきたい。



神仏霊場会総会 西大寺にて開催 当宮宮司が第八期会長に就任

近畿の神社、寺院にて組織される神仏霊場会（会長須磨寺 小池弘三貫主）の総会が七月十日、奈良市の西大寺（松村隆誉長老）で開催された。



総会に先立ち本堂にて国家安泰世界平和祈願会が斎行され、出席した神職、僧侶に加え、会員社寺を全て参拝した満願者の方々も参列の元、日本の弥栄と世界平和を祈願した。

引き続き行われた定例総会では、令和七年度から令和九年までを任期とする第八期の役員の選出が行われ、新たに当宮橋宮司が会長に就任することとなり「令和十年に迎える神仏霊場会設立二十周年事業に向けて準備を進め、万全の状態で次期会長に交代できるよう努めて参りたい」と挨拶した。

神仏霊場会は、伊勢の神宮を中心に近畿各地の社寺巡りが盛んにおこなわれていた歴史的背景を基に設立された会で、令和十年に設立二十周年を迎える。

ミラノ工務店

社業繁栄祈願を祈り御本殿に昇殿

当宮神輿渡御において奉行として奉仕され、千二百二十五年半萬燈祭に関わる様々な事業でご尽力を頂いている株式会社ミラノ工務店（代表取締役社長 小崎学氏 京都市中京区夷川通河原町東入 鉦田町三一〇番地）が六月九日、御本殿に社長以下、多数の社員が揃って昇殿し、社業の繁栄を祈願された。

巫女舞「紅わらべ」も奉奏された祈禱後には、社業繁栄を祈願した特製の木札が授与された。



天神さん

思い出写真館



この写真、昭和二十六年一月二十五日、つまり初天神の日に境内で撮影された一枚である。何人かが手に持っているのは、御本殿の檜皮屋根の中で自然生えた松の苗木という。

燈祭に際し、御本殿の檜皮屋根の葺き替えを行ったところ、強く根を張った十本の松の苗木が見つかったという。京都新聞に「屋根に生えた松 天神さんで希望者に進呈」とした記事が載っており、そこから経緯を紐解く。「移植すれば生間違いなし」として、十本のうち三本は境内に植え、残りの七本を萬燈祭記念として参拝者に贈ることにして希望者を募ったのだ。

「御利益のある松だ」として多くの応募者があつたという。この日、御神前で抽選会があり、その後、当選者や関係者による記念写真の撮影が行われており、写真は一枚一枚の一枚だった。終戦後まだ六年。「幸運の七人に贈る」との写真につけた説明に、御本殿の屋根に生えた松の苗木は、日本復興への願いが込められていたような気がする。



献詠 濱崎加奈子選

菅公は詩歌に優れ、多くの名歌を詠まりました。室町時代には「和歌の神」と仰がれ、さらに柿本人麻呂と山部赤人と並んで「和歌三神」と称えられています。

四月「外山」

せせらぎも外山の桜も宇治の春

茶の湯音頭も祭りも嬉し

九重の外山にかかる浮雲の

早緑あはき峯をながれて

遅咲きの花よ外山に春満ちて

ガイドブックに載らぬ小夜曲

外山にも桜吹雪か春盛り

みやこの空にひとひらの花

外山座より連なる宝神がかり

五雲に遊ぶ尊貴を照らす

風に散る里の桜を見送りて

外山は藤の紫に染む

濃き浅き木々の緑もはるかなる

外山の霞きよしこの朝

【評】 人里に近い山のことをいう。連山の端の山なので「端山」とも。これに対し、山の奥深いところは、深山（みやま）、奥山。大江匡房の「高砂の尾上の桜咲きにけり外山の霞立たずもあらなん」は、遠くの「高砂の尾上」に対して、近くの「外山」を配する。

五月「燕」

陸離れ島となる頃遠船と

平走燕は友となり征く

おかへりと旅を労ひ声かける

燕は同じ店の軒先

風を切る燕返しの手とて

巖流島に散るぞかなしき

青空につはくろせんになりけり

かはらぬ家の軒端めさして

燕の子軒下集ひ幸を呼ぶ

風薫る空川のせせらぎ

京都市 小山 博子

京都市 服部満千子

京都市 若狭 静一

京都市 塩小路光胤

東京都 白石 雅彦

京都市 朝比奈崇子

京都市 田口 稔恵

京都市 小山 博子

京都市 若狭 静一

京都市 服部満千子

京都市 塩小路光胤

東京都 白石 雅彦

六月「滝」

一筋の影我が前を過ぎ行きて

見上る空にはや燕去ぬ

つばくらめ過るかとぞ思ふまなかひを

跳ぶ若人の青き春なり

【評】

早く万葉集に「燕来る時になりぬと雁がねは国偲びつつ雲隠り鳴く」（家持）と詠まれた。燕が来ると雁が帰るというのは漢詩に見られる趣向。

鳥眼下人類知崇の黒部ダム

放流滝にも神のまにまに

分けいればにはかに籠る水霧の

ゆく手に滝の白糸の見ゆ

静けきのまなか切り裂く大滝の

流れは神の手に委ねけり

白滝の脇のしゃくなけ盛りなり

北山の里の鳴神の寺

一瀑にあらず那智滝一柱

真に見ゆる神の姿を

北斗より天の水受け石走る

那智の大瀧白くかざる夜

御熊野の那智の大滝その奥に

光あまれる二の滝はあり

万世をかけて落ちたりみ熊野の滝は

神代のしるしなればや

【評】

激しい流れを糸に見立てた「滝の糸」、落ちる瀧から飛び散るしぶきを白玉にたとえた「瀧の白糸」という歌語も。「岩間より落ち来る瀧の白糸はむすばで見えるも涼しかりけり」（盛方）と涼を詠む歌も。

● 献詠奉納についての問い合わせは、北野天満宮献詠係までご連絡ください。

正式参拝された皆様（敬称略）（四月～六月）

四月 五日（土） 忠節天神神社

四月 十日（木） ウクライナIT

四月 十一日（金） 北嶋荒御前神社外三七社

四月 十四日（月） 小川勝章・河野俊行

四月 二十五日（金） 読売新聞社

四月 二十六日（土） 立命館ボランティアガイド研修

四月 二十七日（日） ソニーマーケティング

五月 三日（土） 京都三大学合同交響楽団

五月 五日（月） 松岡まりあ

五月 六日（火） 十四世林喜右衛門他

五月 七日（水） 京都コンサートホール

五月 九日（金） 京都ランゲージアカデミー

五月 十二日（月） 豊田晋他

五月 十五日（木） 立命館大学文学部

五月 十七日（土） 京都シニア大学史跡探訪部

五月 十八日（日） 日置神社氏子総代会

五月 二十二日（木） 安田春日神社敬神会

五月 二十五日（火） 京都シニア大学史跡探訪部

五月 三十日（金） 船田元・畑恵

五月 一日（日） 天神太鼓会

五月 四日（水） 高井家・小間澤家

五月 六日（金） 松岡まりあ

五月 八日（日） 津田天満宮

五月 十二日（木） 責任役員会

五月 十三日（金） MST保険サービス株式会社

五月 十八日（水） 天神社奉賛会

五月 二十日（金） 中村社団

五月 二十一日（土） 長嶋顯信他

五月 二十三日（月） 京都大学

五月 二十五日（火） 恩智神社

五月 二十六日（水） 鶴屋吉信

五月 三十日（日） 公益社団法人日本建築家協会

五月 三十一日（月） 近畿支部大阪地域会・住宅部会

五月 二日（火） 福生神明社

五月 五日（金） 天神太鼓会

五月 八日（日） 長田敬神講

五月 十日（火） 刀剣プロジェクト

五月 十二日（木）

五月 十四日（土）

五月 十六日（日）

挙式された皆様（四月～六月）

四月 十二日 石川 丈・友佳梨

五月 十日 打合 快成・萌衣

五月 十一日 河井 孝樹・優香

五月 十七日 杉浦 亘・規子

五月 十四日 浅井 航洋・麻紀子

五月 十六日 浅井 航洋・麻紀子

五月 十八日 浅井 航洋・麻紀子

五月 二十日 浅井 航洋・麻紀子

新郎新婦様、御両家の皆様の
末永いご多幸をご祈念申し上げます。

豊臣秀頼の一字名

宝物殿に入ったところの左右に白馬と黒馬一対の絵馬が掛けられている。

それぞれ縦二〇〇センチメートル、横二九〇センチメートルの大きな絵馬である。紙本金地に描かれた絵馬は、ともに仕丁が手綱を牽くが、白馬は静、黒馬は動とに書き分けられている。左黒馬の画面右端には、

奉掛 神馬武運長久所

中央上部には、

松敬白

左端には

慶長拾五年五月吉日

の墨書がある。この奉納銘から、慶長十五年（二六一〇）五月に武運長久を祈念して「松」という人物が奉納した絵馬であることが分かる。では奉納者の「松」とは誰か。幸い当宮所蔵の古文書のなかに、この絵馬に関する史料が残されている。少し煩瑣ではあるがその全文をあげよう。

尚々神前可然所ニ御かけ尤候、奉行大工手伝之為差上申候、以上、

態申入候、仍此絵馬二枚、從秀頼（豊臣）様北野神前ニ被成御掛候、絵馬書付之儀者、竹門（曼殊院良恕）様へ被遊候様ニと御意ニ候間、其通此方より申上候、其方も竹門様へ御参候者、能様ニ可有御談合候、秀頼様御字ハ松と申御字ニ候、此一字を被成御書入

天満宮 歴史の一齣

京都大学名誉教授

藤井 讓治

候様ニと申上候、少々之ハ御のけ候而、能所ニ可有御掛候、委口上ニ申含候、恐々謹言、

片主膳正

五月廿五日貞隆（花押）

松梅院

御宿所

この書状は、豊臣秀頼の奉行の一人である片桐貞隆が北野社の神事奉行である松梅院に宛てたもので、内容は、この二枚の絵馬は秀頼様が北野の神前に掛けるもので、絵馬の書付は曼殊院良恕が書いて欲しいとの秀頼の御意であるので、この方から依頼した、松梅院からも良恕のところに outward いたならば、よきよう相談するよう、なお秀頼を表す字は「松」であるので、この一字だけを書き入れるよう依頼してある、というものである。

「此二枚絵馬」は言うまでもなく先にあげた絵馬であるが、この書状から「松」は豊臣秀頼であること、またこの文字を書いたのは曼殊院良恕であったことが分かる。

前回、奉納万句での一字名を紹介したが、こうした奉納額にも一字名が使用されていることは他にあまりみえず注目される。

なお、「松」は秀吉の一字名でもある。



およそ百年かけて醸成し、千年受け継がれる天神信仰

『北野天神縁起』建久本成る



- | | | |
|------|------|---|
| 承久 | 元年 | 『北野天神縁起』承久本成る |
| 応永 | 八年 | 北野経王堂成る |
| 応仁 | 元年 | 室町幕府の崇敬で「北野祭」隆盛を極めるも応仁の乱より途絶える |
| 天正 | 十五年 | 「北野大茶湯」を豊大閣・千利休居士ら催す |
| 慶長 | 八年 | 出雲阿国が北野境内で初めてややこ踊り(歌舞伎踊り)を公演(歌舞伎発祥) |
| 慶長 | 十二年 | 豊臣秀頼公 北野神社殿を造営する(慶長の大造営) |
| 江戸年間 | | 後西天皇御宸筆 勅額「天満宮」御寄進(三光門掲額) |
| 元治 | 元年 | 北野をはじめ太宰府・大阪・湯島など主要な天満宮に「和魂漢才碑」建立 |
| 慶応 | 四年 | 勅命により北野祭臨時祭再興 |
| 明治 | 四年 | 神仏判然令(神仏分離)により 天台宗比叡山延暦寺のもと社務を統括していた曼殊院との凡そ千年間に亘る神仏習合が終わる |
| 明治 | 四年 | 北野天満宮 臣下で異例の官幣中社となる |
| 明治 | 三十五年 | 太宰府天満宮 国幣小社となる(のち官幣中社) |
| 昭和 | 二十七年 | 菅公千年大萬燈祭を斎行する |
| 平成 | 十四年 | 菅公千五十年大萬燈祭を斎行する |
| 令和 | 二年 | 菅公千百年大萬燈祭を斎行する |
| 令和 | 九年 | 例祭(かつての北野祭) 斎行に伴い 比叡山延暦寺と共に北野御霊会を再興 |



紅梅殿結婚式

日本文化の発信地、
紅梅殿からはじまる家族の日

貞観元年（八五九年）菅公が十五歳の元服の折、母君は菅公の前途を祝し、『久方の月の桂も折るばかり家の風をも吹かせてしがな』の和歌を詠み励まされました。
我が国で最初に家風を表されたのが、菅公の母君であつたと伝えられています。立派な家風をもった稔り多い新たな家庭を築かれますようにとの願いをこめて、菅公邸宅ゆかりの紅梅殿での神前結婚式から新しい「家族」がはじまります。



天神様の秋まつり
きたのさい

北野祭

●由緒

京都の代表的な秋祭りとして知られる瑞饋祭は、村上天皇の御代にはじまったとされる「北野祭」が起源と伝えられています。
年に一度、御鎮座の往時に思いを致し御神霊を御旅所より「お迎え」することで、氏神としての天神様を改めて意識し感謝する心が育まれます。



十月	
一日	神幸祭 午後一時 午後四時 午前四時 御旅所到着 行列出発
二日	午後四時 午後三時 御旅所到着 献茶祭 （表千家宗匠奉仕） 甲御供奉饌 （七保会奉仕） 行列出発 本社到着 後宴祭 （八乙女舞奉納）
三日	午後三時
四日	遷幸祭 午後一時 午後四時半 午後三時半
五日	午後三時半

七五三

もうで
詣は、知恵の神様
かみさま

北野天満宮へ

七五三詣は、子供の成長に感謝し無事を祈り、神社にお参りする大切な人生儀礼です。子供は国の宝であり、親にとってかけがえのない宝です。北野天満宮で七五三詣をし、子供の成長と無事を祈るとともに、さらに天神様の御加護で知恵を授かりましょう。ご家族お揃いのご参拝をお待ちいたしております。

★七五三詣の方は、史跡御土居もみじ苑入苑優待あり

- 一、受付日
十一月中、毎日受付いたします。
※但し、十一月二十三日（日）、十一月二十六日（水）は、祭典のためご祈禱を中断する時間帯がございますのでご了承下さい。
※尚、十一月以外の月も、事前にお申込み下さればお受けいたします。
- 二、七五三詣初穂料
一人 五千元より
二人 八千元
三人 一万二千元（兄弟姉妹に限る）
一、授与品・記念品
知恵守 千歳飴 祝い笹、学用品セット
二、案内状持参の特典
特別授与品の「勾玉」を進呈

御縁日 境内ライトアップ

毎月25日は天神さんの御縁日。
境内特別ライトアップ!

定期購読のお知らせ

- 定期購読 1,000円（1年分）
季刊・年4回発行
- 学校・教育機関でお申込みの場合は無料送付。
- お申込み・お問い合わせは、社務所まで。



右記QRコードを携帯
電話やスマートフォン
で読み込むと北野天満
宮の最新情報にアクセスできます。上記
の各SNSでもご案内しております。

●アクセス

名神高速道路南インター又は東インターより約30分
第二京阪道路鴨川東インターより約20分
JR京都駅より市バス50系統
JR・地下鉄二条駅より市バス55系統
JR円町駅より203系統
地下鉄今出川駅より市バス51・203系統
京阪出町柳駅より市バス203系統

●参拝時間

■7時～17時
但し、毎月25日（御縁日）は6時30分から20時
※青もみじ苑・もみじ苑・梅苑「花の庭」のライトアップ期間や正月等は夜間も開門しています。
最新情報はホームページ等のお知らせ記事をご覧ください。

■文道会館・授与所 受付時間 9時～16時30分

京阪三条駅より市バス10系統
阪急大宮駅より市バス55系統
阪急西院駅より市バス203系統
京福電車白梅町駅より徒歩5分
いずれも北野天満宮前下車すぐ

●御祈禱

■受付時間 9時～16時
■受付場所 御本殿東側授与所

●駐車場

毎月25日は、御縁日のため駐車できませんので公共交通機関でお越しください。